



別冊

取りはずしてご使用ください。



ホントにわかる 中学3年間の総復習 英語

解答と解説



新興出版社 shinko publishing



ステップ 1

- 1 (1) I live (2) the store opens (3) We, get
- 2 (1) is (2) Are, am (3) is not (4) were
- 3 (1) Becky makes dinner (for her family.)
 (2) I don't read comic books (so often.)
 (3) Do you practice the piano (every day?)
 (4) Does your father come home (late? — No,) he does not(.)
- 4 (1) listen (2) cleans (3) studied (4) had

1 読解チャレンジ テツオは中学生です。／彼は市に住んでいます／埼玉にある。／彼はサッカークラブのメンバーです／その市にある。／彼はサッカーが大好きです。／ですから彼はとても熱心に練習します。／彼の父もサッカーファンです。／ときどき／彼らはいっしょに行きます／浦和のサッカースタジアムへ／そして試合を楽しみます。

解説

- 1 (1) 「私はニューヨークに住んでいます。」
 (2) 「その店はときどき 10 時に開店します。」 **主語はいつも文頭にくるとは限らないので注意。**
 (3) 「私たちはいつも早く起きます。」 **主語と動詞の間に語(句)が入ることもある。**
- 2 (1) 主語が三人称単数なので, be 動詞は is を使う。
 (2) be 動詞は I → am, you → are を使う。
 (3) be 動詞の否定文の語順は <be 動詞 + not>。
 (4) then 「そのとき」があるので過去の文。主語が複数形なので be 動詞は were にする。
- 3 (1) make は「～を作る」という意味の動詞。
 (2) don't を動詞の前に置いて否定文にする。
 (3) 「あなたは～しますか。」は Do you ~? の形

- で表す。
- (4) 主語が三人称単数なので, does を文頭に置いて疑問文にする。否定の答えなので does not とする。
 - 4 時を表す語(句)には文の時制を判断する手掛かりになるものもある。
 (1) 主語が I なので動詞は原形。in my free time は「ひまなときに」という意味。
 (2) 主語が三人称単数なので cleans にする。on Sundays は「毎週日曜日に」という意味。
 (3) last night 「昨夜」があるので文の時制は過去。study → studied にする。
 (4) yesterday 「昨日」があるので文の時制は過去。have → had にする。

ステップ 2

- 1 (1) is (2) draws (3) Do (4) didn't (5) is
- 2 (1) visit (2) goes (3) wears (4) dance
- 3 (1) Do, do (2) Is, isn't, It's (3) Are, are
- 4 (1) ① have ② have (2) ① took ② take
- 5 (1) Some students answered the question (quickly.)
 (2) My sister is a good cook(.)
 (3) It was rainy this (morning.)
- 6 (1)(例) Ken helps his father at home.
 (2)(例) It is[It's] Wednesday.
- 7 (1) stood
 (2) ウ

- 1 (1)主語が三人称単数なので、be 動詞は is を使う。
 (2)主語が三人称単数なので、draws にする。
 (3)主語に合わせて do を使う。
 (4)last night「昨夜」があるので、文の時制は過去。動詞の前に didn't を置く。
 (5)主語は三人称単数なので be 動詞は is。
- 2 (1)「(人・場所)を訪れる」は visit で表す。
 (2)主語が三人称単数なので、goes にする。
 (3)「眼鏡をかけている」は wear glasses。
 (4)「ダンスをする」は dance。
- 3 空所の前後の語(句)や文に着目して、意味の通る英文にする。
 (1)like があるので do を文頭に置いた疑問文にする。答えるときも do を使って答える。
 (2)be 動詞は場所を表す語(句)とともに用いて、場所や存在などを表すことができる。B の 2 文目は空所の数から判断して、it is の短縮形 it's を入れる。
 (3)be interested in ~で「～に興味がある」という意味。会話文全体の時制は現在。主語は複数なので、A・Bともに be 動詞は are を使う。
- 4 英語には複数の意味を表す語もあるので、文脈によって意味をとらえるとよい。
 (1)have は「～を持っている」のほかに「～を食べる」、「～がある」などの意味を表す。②は現在時制の文で疑問文なので have にする。
 (2)take は「(写真などを)撮る」、「(時間などが)かかる」などの意味を表すので、take を入れると意味が通じる。①は yesterday「昨日」があるので、過去形 took にする。
- 5 (1)「～に答える」の日本語につられて、answer to ~としないように注意。to が不要。
 (2)「料理がじょうず」は動詞 cook を使って cook well とも表すが、語群と不要な語が 1 語あ

ることから a good cook で表す。直訳すると「上手な料理(をする)人」となるが、日本語で表すときは「料理がじょうず」とすると自然。cooks が不要。

(3)「雨が降っていた」は動詞の rain「雨が降る」で表すこともできるが、語群と不要な語が 1 語あることから It was rainy ~で表す。rained が不要。

6 (1)日本語の「お父さんの手伝い」につられて my father's help などとしないように注意する。「彼(=健)のお父さんを手伝う」と考えて help his father で表し、場所を示す語句 at home「家で」を続ける。

(2)今日の曜日は What day is (it) today? などとたずねられることが多い。答えるときは it を文頭に置いて答える。曜日のつづりに注意。

7 (1)英文全体の時制は過去なので、stand を過去形の stood にする。
 (2)空所を含む文が「それから、私は恵子にたくさんのことについてたずねました」という意味になると、直後の文への流れが自然になるので、正解はウ。アは「私は恵子のお話を聞きませんでした」イは「恵子は私と話すのをやめました」エは「恵子は休憩を私と一緒に過ごしませんでした」

全訳 夏休み明けの最初の日に、私たちのクラスに転校生の恵子が来ました。彼女は私たちの前に立って、「こんにちは、私の名前は恵子です。よろしくお願ひします」と言いました。私たちのクラスの皆が恵子に温かい拍手をしました。それから彼女は私の隣に座りました。

短い休憩のとき、私は恵子と同じタオルを持っていることが分かりました。私のタオルが彼女と話すきっかけをくれたのです。私は彼女に、「私のタオルを見て!」と言いました。恵子は、「わあ、私たちのタオルのキャラクターは私のお気に入りなの!」と言いました。それから、私は恵子にたくさんのことについてたずね、私たち 2 人は一緒にたくさん話しました。休憩が終わると、私は私たちが友達になりつつあるように感じました。私は「恵子についてもっと知りたい」と思いました。

🔗入試につながる

- ◆英文の中心となる〈S + V〉(主語+動詞)をまず見つけよう!
- ◆動詞は大きく分けて 2 種類: be 動詞? それとも一般動詞?
- ◆一般動詞の現在形に -(e)s が付くか付かないかは、主語の人称と数で決まる!

ステップ 1

- 1 (1) closes (2) are[come] (3) look (4) visit (5) bought
 2 (1)(Ryo) sent Ben an e-mail (last night.)
 (2)(Could you) tell me the way to (the station?)
 (3) Lisa wants to drink (orange juice.)
 (4)(Meg) calls her brother Mike (.)
 (5)(The song) made him happy (.)
 3 (1) to (2) for (3) Put
 (4) There are thirty students (in my class.)
 (5) Are there any good books (for children?)

1 読解チャレンジ 美術館があります／私の故郷には。／歩いて10分です／私の家から美術館までは。／私はよくそこを訪れます／私の友達といっしょに。／美術館の中にはすてきな店があり、／私たちはオリジナル商品を買うことができます／はがきなどの／そこで。／私は美術が大好きです／ですから、私は幸せに感じます／美術館で。

解説

- 1 (1)現在の文。主語の This restaurant は三人称単数なので、動詞は **closes** となる。
 (2)「～出身」は、be from ～や come from ～の形で表せる。
 (3)「～に見える」は look で表す。
 (4)「(人・場所)を訪ねる」は visit で表す。
 (5)時間を表す語 yesterday があるので過去の文。buy の過去形は **bought**。
 2 (1)<send + (人) + (もの)>で「(人)に(もの)を送る」。
 (2)<tell + (人) + (もの)>で「(人)に(もの)を教える」。「駅に行く道」は the way to the station。

- (3)「～したがつている」は want to ～。
 (4)<call + (人・もの) + ～>で「(人・もの)を～と呼ぶ」。
 (5)<make + (人・もの) + ～>で「(人・もの)を～にする」。
 3 (1)(2)<SVOO>を<SVO + to[for] + (人)>の文にする。give では to を、make では for を使う。
 (3)命令文は**動詞の原形**で始める。「広樹、その箱をテーブルに置いてください。」という文に。
 (4)There is[are] ～. は**人やものの存在を表す文**。thirty students に合わせて be 動詞は are。
 (5)疑問文なので Are there ～? の語順にする。

ステップ 2

- 1 (1)ウ (2)ア (3)イ (4)ア (5)イ
 2 (1) it for (2) sounds, be (3) there, take
 3 (1) does, taste (2) do, best (3) sent, to (4) call you (5) Don't be[get]
 4 (1) made me (2) teaches us (3) plays tennis
 5 (1)(Can) you show me your notebook (?)
 (2)(Ms. Brown) told us an interesting story about dogs (.)
 (3) How many books are there in this library (?)
 (4) Do not eat too much before dinner (.)
 6 (1)(例) Ken's grandmother has three cats.
 (2)(例) My English is getting better.
 (3)(例) Please look at this picture. [Look at this picture, please.]
 (4)(例) What happened (to you)?
 7 (1) became

- 1 (1)「～に見える」は look で表す。
 (2)「～を…の状態にする」は make で表す。
 (3)「～を…に送る」は send で表す。
 (4)「～に着く」は arrive at ～で表す。
 (5)「～を…と名づける」は name で表す。
- 2 (1)空所を含む文が「私の祖父が昨年それを私に作ってくれました。」という意味の文にする。
〈SVO + to[for] + (人)〉の文では make は for とともに使われる。
 (2)Bの返答文を「楽しそうですね。でも午後は強い風に気をつけてください。」という意味の文にする。be 動詞の命令文は be で始める。
 (3)1つ目の空所を含む文は Is there ～? で「～はありますか。」とたずねる文にする。2つ目の文は空所に take を入れて、「ここから20分かかりますでしょう。」という意味の文にする。
- 3 (1)空所の数から一般動詞 **taste** 「(～な)味がする」を使って表すと判断する。なお、この文は be 動詞を使って This juice is not very good. としてもほぼ同様の意味を表せる。
 (2)「最善を尽くす」は do one's best で表す。
 (3)「(人)に(もの)を送る」は前置詞 to を使って **〈send + (もの) + to + (人)〉** の形でも表せる。send の過去形は sent。
 (4)「(人・もの)を何と呼びますか。」という意味の疑問文は **〈What + do[does] + 主語 + call ～?〉** の形。
 (5)禁止を表す命令文は文頭に **Don't** を置く。
- 4 (1)「この記事を読んだとき、私は驚きました。」
〈make + (人・もの) + ～〉 「(人・もの)を～にする」を使って「私を驚かせた」にする。
 (2)「スミス先生は私たちの英語の先生です。」
〈teach + (人) + (もの)〉 「(人)に(もの)を教える」にする。
 (3)「ルーシーは上手なテニスの選手です。」書きかえの文に well 「上手に」があることから、

「ルーシーは上手にテニスをします。」という意味の文にする。

- 5 (1)「(人)に(もの)を見せる」は **〈show + (人) + (もの)〉** や **〈show + (もの) + to + (人)〉** の形で表せる。語群に to がないことから、**〈SVOO〉** の文にする。for が不要。
 (2)「(人)に(もの)を話す」は **〈tell + (人) + (もの)〉** で表す。speak が不要。speak は speak to ～ about ... 「～(人)に…について話す」となる。
 (3)How many books 「何冊の本」に are there が続く疑問文にする。has が不要。
 (4)禁止の命令は **Do not[Don't]～.** で表す。You must not ～. でも表せるが、主語 you が必要なので、must が不要。
- 6 (1)「飼っている」を have を使って表す。主語は Ken's grandmother なので三人称単数。have の三人称単数形は has。
 (2)get は「～になる」という意味もあり、状態の変化を表す。「よくなってきている」は現在進行形で表す。
 (3)please を使って丁寧なお願いの命令文にする。
 (4)What happened? は日常会話でよく使われる表現なので覚えておくとよい。「あなたに」という意味を付け加えるのであれば、**to you** と前置詞が必要なので注意。
- 7 (1)空所を含む文が「それによって私はより読書に興味を持つようになりました。」という意味になると英文の流れが自然。become 「～になる」の過去形は became。

全訳 私の父と母は本を読むことが好きです。私が子どものころから、家にはたくさんの種類の本があります。私が寝るとき、父はいつも一緒に私の部屋に来て、私に絵本を読んでくれました。私は4歳くらいのときに本を読み始めました。本を読んだあと、私はその話について母と話すのが好きでした。母はいつも私の話を聞いてくれ、優しい声で「その話を読んでどう感じたの」や、「その話についてどう思うの」と言いました。それによって私は読書により興味を持つようになりました。

🔗入試につながる

- ◆動詞の種類によって、後ろに何が続くのか予測するのが大切！
 → make など、文の形によって表す意味が違う動詞に注意しよう。
- ◆ There is[are] ～. の文は、is[are] の直後にくる語句が主語になる！

ステップ 1

- ① (1) brothers (2) letter (3) homework (4) teeth
 ② (1) your (2) This (3) Someone (4) one (5) Ken's
 ③ (1) the (2) a (3) a (4) × (5) the
 ④ (1) We go swimming twice a (week.)
 (2) How about doing something for (children?)

① **漢語チャレンジ** インターネットはとても役に立ちます／私たちの日常生活において。／例えば／私たちはたくさんの健康的なレシピを見つけることができます／インターネット上で。／それらのうちのいくつかは／私たちに私たちの食事のためのヒントを与えてくれるでしょう。／インターネットは私たちの勉強も助けてくれるでしょう。／私たちは利用することができます／オンラインの地図やガイドブックや辞書を。／これらのサービスの多くは無料です／ですから、私たちはお金を払う必要がありません／それらのために。

解説

- ① (1)直前に two があるので、brother を複数形の brothers にする。
 (2) a があるので名詞は単数形になる。
 (3) homework は不可算名詞なので、形はそのまま。a lot of ~ 「たくさんの～」は可算名詞・不可算名詞の両方に使える。
 (4) 「夕食後に歯を磨きなさい。」という意味の文にする。tooth の複数形は teeth。
 ② (1) 「あなたの家」は your house。
 (2) 「こちらは～です。」という文にする。
 (3) 「だれかが昨夜私に電話をかけました。」という意味の文にする。anyone は肯定文では「だれでも」という意味。
 (4) 直前に出てきた名詞 (bag) と同じ種類のもの

を指す代名詞は one。

(5) <名詞 + 's> で「～の、～のもの」を表す。

- ③ (1) <play + the + 楽器名> で「～を演奏する」。
 (2) cafe 「カフェ」は単数の可算名詞なので、冠詞 a が必要。
 (3) bird 「鳥」は単数の可算名詞なので、冠詞 a が必要。
 (4) <by + 交通手段を表す名詞> で、bus の前には a[an] も the もつかない。
 (5) 英文が表す「ドア」は over there 「あそこの」ドアを指しているのが明白なので、冠詞は the がつく。
 ④ (1) 「週に 2 回」は twice a week で表す。
 (2) 「何かをする」は do something で表す。

ステップ 2

- 1 (1) children (2) windows (3) Those (4) cup (5) a
 2 (1) this, mine (2) an, teacher (3) two, milk (4) anything, these
 3 (1) me (2) her (3) yours (4) our
 4 (1) it, one (2) school, train (3) Everyone, That (4) the, a
 5 (1) We have six classes a day (.)
 (2) All of the houses around here are new (.)
 (3) Would you like a piece of pie (for dessert?)
 6 (1) (例) That is my brother.
 (2) (例) I had a cold last week.
 (3) (例) May[Can] I ask you something?
 7 (1) 工

解説

- 1 (1) 「スミスさんには3人の子どもがいます。」 childの複数形は children。
- (2) 「私の部屋には大きな窓が2つあります。」 windowの複数形は windows。
- (3) 「あちらは私のいとこのナナとアレックスです。」 複数の人物を指しているの、代名詞は those。
- (4) 「もう1杯コーヒーがほしいです。」 直前に another「もう1つの」を表す語があることから 続く名詞 cup に a はつけない。
- (5) 「駅の近くに美術館があります。」 There is ~. の文の「~(名詞(句))」はふつう **不特定のものを表す語(句)**が入るので、**the はつかない**。
- 2 (1) 「これ」を表す代名詞は this。「私のもの」は mine で表す。mine = my racket という意味。
- (2) art は発音が母音で始まるので、冠詞は an。
- (3) 「牛乳」は **不可算名詞**なので**複数形にしない**。「コップ2杯の牛乳」は two glasses of milk で表す。
- (4) 疑問文中で「何か」とたずねるときはふつう anything で表す。「これら」は this の複数形 these で表す。
- 3 (1) 「兄が私に昨夜電話をかけてきました。」 「私に」は me で表す。
- (2) 「私はすぐに彼女に返事を書きます。」 「~に返事を書く」は write ~ back, 「彼女に」は her で表す。
- (3) 「このしおりはあなたのものかもしれません。」 「あなたのもの」は yours で表す。
- (4) 「ルーシーは昨年私たちの学校に来ました。」 「私たちの」は our で表す。
- 4 (1) A は B に「この T シャツはいかがですか。」とたずねているので、**前に出てきたものを指す it** を選ぶ。B は「**同じ種類の別のもの**」を見せたいと言っているの、**one** を選ぶ。
- (2) 「学校に通う」という意味では school に冠詞はつかない。交通手段を言うときは **by + 交通**

- 手段を表す名詞**で表し、名詞に冠詞はつけない。
- (3) A 「パーティーではだれでも無料で飲み物がもらえます。」 B 「いいね。何かもらいにいきましょう。」 という意味の英文になると意味が通る。「だれでも」は everyone で表す。B は A が言ったことに対して「いいね」と言っているの、前の文の内容を指す that を使う。
- (4) 「**1 つしかないもの**」には定冠詞 **the** をつける。〈What (a[an]) ~!〉で「なんて~だろう!」 という意味を表す。

- 5 (1) 語群から、「授業がある」は have を使って表す。classes は class 「授業」の複数形。there が不要。
- (2) 「この周辺の家はすべて」は all を使って all of the houses around here で表す。each 「それぞれ」が不要。
- (3) 「~をいかがですか。」は Would you like ~? で表す。「パイを1切れ」は a piece of pie. for が不要。
- 6 (1) 「あちらは~です。」は That is ~. で表す。
- (2) 「風邪を引いている」は have a cold で表す。cold に冠詞をつけることに注意。
- (3) 「~してもよいですか。」は May[Can] I ~? で表す。
- 7 (1) 下線部を含む文は「ミサはそれを聞いてとても嬉しく思いました。」 という意味。that 「それ」が指す内容は直前のエレンが言った「ありがとう、ミサ。あなたはいつもたくさん私を助けてくれますね。」の内容なので、**エが当てはまる**。

全訳 ミサは高校1年生です。10月のある日、ミサの学校にオーストラリアから数名の高校生がやってきました。彼らは日本文化と日本語を学ぶことに興味を持っていました。彼らの中の1人のエレンはミサの家族の家に滞在しました。ミサは英語を話すよい機会なのでとても喜びました。学校の初日にミサはエレンにすべてのことを英語で説明しました。エレンは、「ありがとう、ミサ。あなたはいつもたくさん私を助けてくれますね。」と言いました。ミサはそれを聞いてとても嬉しく思いました。

🔗 入試につながる

- ・英語には「数えられる名詞」と「数えられない名詞」がある！
→ 「数えられる名詞」の場合、冠詞 a[an] がつくのか、複数形になるのかということにも注意しよう。
- ・ it, this, that はまとまった内容を指すこともある！

ステップ 1

- ① (1) new (2) beautiful (3) rainy (4) many (5) much (6) some
 ② (1) a lot of (2) little (3) many (4) any (5) a few (6) some
 ③ (1) (Yuka) gets up early every day (.)
 (2) (This bookstore) sometimes opens at nine (.)
 (3) (Can) you see the birds over there (?)

① **読解チャレンジ** ジェーンとキャシーは仲のよい友達です／同じ町の。／彼女たちはよくいっしょに映画に行きます／週末に。／この前の日曜日、／彼女たちはハドソン先生と会いました／以前彼女たちの歴史の先生だった／映画館で。／映画が終わったあとで、／ハドソン先生はジェーンとキャシーを誘いました／フランス料理のレストランでの夕食に。／食事はとてもおいしかったです／そして彼女たちはとても楽しい時を過ごしました／レストランで。

解説

- ① (1) 「新しい」は new。反対の old 「古い」も覚えておくとよい。
 (2) 〈look + 形容詞〉で「～のように見える」。
 (3) 「雨が降る」は形容詞 rainy 「雨降りの」を使って be 動詞の文で表すことができる。
 (4) friend は可算名詞なので、「たくさんの友達」は many をつけて many friends で表す。
 (5) 「(量)が多い」は much を使う。
 (6) 肯定文では、「いくらかの」は some を使う。
 ② (1) information 「情報」は不可算名詞なので、量の多さは a lot of や much で表す。
 (2) 「通りには雪がほとんどありませんでした。」という意味の文にする。few のあとには可算名詞の複数形が続くので使えない。
 (3) apples と複数形になっているので many を使

う。

- (4) 「この飲み物には砂糖がまったく入っていません。」という意味の文にする。not ... any ～で「少しの～もない」という意味。
 (5) songs と可算名詞の複数形が続いていることから a few を使う。a little は不可算名詞の前で使われるので注意。
 (6) 「ケーキといっしょにコーヒーはいかがですか。」という意味の文にする。coffee は不可算名詞なので many は使えない。
 ③ (1) every day は文末に置く。
 (2) 頻度を表す副詞と、時間を表す副詞的な語句が含まれる文。sometimes は動詞 opens の前、時間を表す at nine は文末に置く。
 (3) 「あちらの」を表す over there は文末に置く。

ステップ 2

- 1 (1) ア (2) イ (3) ア (4) イ (5) ウ
 2 (1) often (2) popular (3) much (4) Sometimes
 (5) late (6) never (7) slowly (8) any
 3 (1) swim fast (2) cook well (3) an old watch
 4 (1) (How) much snow did you have last year (?)
 (2) I'll call you back in a few minutes (.)
 5 (1) (例) I know some good restaurants.
 (2) (例) Let's start something new.
 (3) (例) Do you have any ideas?
 (4) (例) What do you usually do on weekends?
 6 (1) ウ (2) getting

- 1 (1)「拓也は部屋にたくさんのCDを持っています。」CDは可算名詞なので many を選ぶ。
 (2)「私はアクション映画がとても好きです。」very much で「とても」という意味を表す。なお、very much の代わりに a lot を文末に置いてほぼ同様の意味が表せる。
 (3)「私の父はもう1杯紅茶を飲みました。」another は「もう1つ[人・杯]の」という意味の形容詞。
 (4)「亜美は速く泳ぐことができます。」直前に助動詞があるので、この文では副詞は動詞の後ろに置く。
 (5)「この問題は少し難しそうです。」a little は「少し」という意味の副詞としても使われる。
- 2 (1)頻度を表す副詞 often 「よく」を入れる。
 (2)「人気のある」は popular。
 (3) water は不可算名詞なので、量の多さを表す much を使う。
 (4)副詞は文頭に置かれることもある。
 (5)late は「遅い」という意味の形容詞。be late for ～で「～に遅刻する」という表現。
 (6)never は「決して～ない」という否定の意味をもつ副詞。not 「～しない」よりも強い表現。
 (7)slowly 「ゆっくりと」と反対の fast 「速く」はセットで覚えておくとよい。
 (8)any は疑問文中で「何らかの、いくらかの」という意味を表す。
- 3 (1)「彼らは速く泳ぐ人たちです。」を「彼らは速く泳ぎます。」という文に書きかえる。副詞 fast は動詞 swim のあとに置く。
 (2)「私の弟はじょうずな料理人です。」を「私の弟はじょうずに料理ができます。」という文に書きかえる。「じょうずに」は well。
 (3)「この腕時計は古いです。」を「これは古い腕時計です。」という文に書きかえる。old watch につく冠詞は an にすることに注意。
- 4 (1)雪の多さは「量」でたずねるので、How

much を文頭に置いて How much snow ～? の疑問文にする。snow は不可算名詞なので、数の多さを表す many は使えない。なお、数を問うときは How many ～? でたずねる。

(2) minute は可算名詞なので、「数分」は a few minutes で表す。a little は不可算名詞につく形容詞なので使えない。call ～ back で「～に電話をかけなおす」という意味。

- 5 (1)some good restaurants の語順に注意する。なお、「いくつか」は some のほかに a few や several などを使って表すこともある。
 (2)「何か新しいこと」は something new で表す。形容詞 new が代名詞 something の後ろに置かれることに注意。
 (3)相手に意見を求めるときによく使われる表現。any は疑問文中で「何らかの、いくらかの」という意味を表す。
 (4)週末の習慣についてたずねる文。この意味では「普段」は usually, 「週末に」は on weekends で表すのがふつう。
- 6 (1)空所を含む文を「私のクラスの歌は本当に難しかったのですが、私のパートメンバーはすぐにそれをじょうずに歌うことができました。」という意味にすると、後につながる。be able to ～は「～することができる」という意味。
 (2)get better は「よくなる」という意味。直前に be 動詞 was があることから、過去進行形 getting better の形にする。

全訳 昨年の秋、私たちの中学校で合唱コンクールがありました。私はアルトパートのリーダーでした。

私のクラスの歌は本当に難しかったのですが、私のパートメンバーはすぐにそれをじょうずに歌うことができました。私は最初の一步を踏み出した気持ちになって、嬉しくなりました。それから、私はパートの歌声をより元気のよいものにしたいと思いました。それで、私はいつもパートメンバーに「大きな声で歌って!」と言いました。私たちはより大きな声で歌いました。私は自分たちの歌声がよりよくなっていると思って嬉しかったです。私はリーダーとしてうまくやっていると思いました。

🔗入試につながる

- ◆形容詞は「名詞の前」か「be 動詞のあと」に置くのが基本!
- ◆ some や many, much など数量を表す形容詞は、ほかの形容詞の前に置く!
- ◆頻度を表す副詞は、原則として一般動詞の前または be 動詞・助動詞のあとに置く。

ステップ 1

- ① (1) and (2) so (3) or (4) but (5) and (6) but
- ② (1) If (2) when (3) that (4) if (5) because
- ③ (1) (The train) will leave at two (.)
 (2) (What) can we do for those children (?)
 (3) (I can) go there without this map (.)
 (4) (Lily) talked about saving water for the future (.)

① **速読チャレンジ** ある夏の日／サトシはおもしろい雑誌を見つけました／本屋で。／その特集記事は心霊スポットについてでした。／サトシは幽霊に興味があります／そういうわけで、彼はその雑誌を買いました。／その雑誌では／10人の人たちが自分たちの不思議な体験について語っていました／古いホテルや病院や学校での。／サトシは少しこわくなりました／それらを全部読んだあとで。

解説

- ① (1) 「1匹のネコと2匹のイヌ」となるように接続詞 **and** を入れる。
 (2) 〈A, **so** B〉「A, そういうわけでB」の形では、AがBの〈理由〉になる。
 (3) 「チキンか、または魚か」は **or** を入れる。
 (4) (6) 空所の前後で対立する事柄を述べるので、**but** が適切。
 (5) 〈命令文, **and S + V**〉で「～なさい、そうすれば…」。
- ② (1) 「質問があるならば」となるように条件を表す **if** を使う。
 (2) 「～するとき」を表す **when** が入ると意味が通る。
 (3) 「～だと思う」は **think that** ～で表す。接

- 続詞 **that** は省略可能。
 (4) 「明日晴れたら」となるように条件を表す **if** を使う。
 (5) 接続詞以下が富士山を好きな理由を述べている。**because** 「～だから」が適切。
- ③ (1) **at** は時刻を表す前置詞。「2時」は **at two**。
 (2) 「何をすることができますか」と考えて、**What can we do ~?** とする。「～のために」は **for**。
 (3) 「この地図なしに」は **without this map**。
 (4) 「～について話しました」**talked about** のあとに、「水を節水すること」**saving water** を続ける。

ステップ 2

- 1 (1) イ (2) ウ (3) ア (4) イ (5) ア (6) ウ
- 2 (1) in (2) near (3) When (4) on (5) that (6) before (7) by (8) or
- 3 (1) ① are (2) × (2) ① × (2) 〇 (3) ① × (2) 〇 (4) ① to (2) by [×] (5) ① 〇 (2) 〇
- 4 (1) There is a new library in front of the station (.)
 (2) I won't buy this T-shirt because I don't like (the color.)
- 5 (1) (例) I get up at six every day.
 (2) (例) Let's eat[have] lunch when we arrive at the airport.
 [When we arrive at the airport, let's eat[have] lunch.]
 (3) (例) I am from Tokyo.
 (4) (例) I like red, blue(,) and yellow.
- 6 (1) 工

解説

- ① (1) 「店に行ったが、何も買わなかった」という、2つの対立する事柄を述べるので **but** を選ぶ。

- (2) **during summer** で「夏の間」という意味。
 (3) **I hope that** ～で「私は～を望む」という意味を表す。that 以下が動詞 hope の目的語。
 (4) 「まっすぐ行って、2つ目の信号で右に曲がりなさい」と考える。「～して…」と連続した動作を **and** でつなぐ。
 (5) 「川に沿って」という意味にする。前置詞は **along** が適切。
 (6) **on the wall** で「壁に」という意味を表す。on は上下などの位置に関わらず「**接している**」ことを表す。

2 (1) 年を表すときは前置詞 **in** を使って表す。

- (2) 「～の近くに」は **near**。
 (3) 「～するとき」は **when** を使って表す。
 (4) 「(毎)週末に」は **on weekends** で表す。
 (5) **think that** ～「～だと思う」の疑問文。接続詞 that は省略可能。
 (6) 「～する前に」は **before**。before dinner 「夕食前に」など、あとに名詞の働きをする語(句)が続くこともある。
 (7) 交通手段は、**<by + 交通手段を表す名詞>**。
 (8) **<命令文, or S + V>** で「～なさい、さもないと…」という意味を表す。

- 3** (1) 「もしあなたが明日暇なら、買い物に行きましょう。」①条件を表す **if** ～の中では、未来のことでも動詞は現在形。② **go shopping** で「買い物に行く」。日本語の「～に行く」につられて **go to shopping** としないように注意。
 (2) 「私はあなたの助けなしにこれができると思いません。」① **I don't think that** ～. は「私は～だと思わない。」という意味を表す。that は省略可能。② **without** は「～なしに」という意味で、with 「～を使って」と反対の意味を表す。
 (3) 「ルーシーは今年の冬、私たちを訪ねました。」「～を訪ねる」は **visit** で表す。日本語につられて **visit** のあとに前置詞をつけないよう注意。

- ② **last winter** は「今年の冬」という意味の副詞で、前置詞はつけない。
 (4) 「明日(までに)私にEメールを送ってください。」① **send** は前置詞 **to** をとる動詞。② 「～までに」と**期限**は、前置詞 **by** で表す。「明日」と言うときは前置詞は不要。
 (5) 「私たちはスタジアムに行き、野球の試合を見ました。」前置詞、接続詞ともに正しく使われている。

4 (1) 「～の前に」は **in front of** ～で表す。behind 「～のうしろに」が不要。

- (2) **because** を使ってTシャツを買わない理由を示すと文の意味が通じる。because の代わりに **so** を使うと、「私はこのTシャツを買わないので、色が好きではありません。」という意味になるので注意。so が不要。

5 (1) 「～時に」は **at** を使って表す。

- (2) 「空港に着いたとき」と考えて **when** を使う。「～に到着する」は **arrive at** ～。
 (3) **from** 「～から」を使って出身地を **I am from** ～. で表す。なお、この文は動詞 **come** を使って **I come from** ～. としても同様の意味を表せる。
 (4) 好きな3色を **<A, B(,) and C>** の形で表す。コンマは省略可能だが、英文によっては意味を明確にするためコンマを入れたほうがよい場合もある。

- 6** (1) 「昨年ジャクソンさんが日本に来たとき、」に続くものを本文の内容に合うように選ぶ。本文3～4行目の内容から、**工** 「彼はミオの家に1週間滞在しました」を選ぶ。

全訳 ジャクソンさんは私の父の友人です。彼は若いとき、私の祖父の家に6か月間滞在しました。彼は母国に帰ったあとに医者になり、目のための新しい薬を作りました。彼は病院も建てました。彼は日本が大好きです。それで彼は昨年家族とともに日本を訪れて、私たちの家に1週間滞在しました。

GO 入試につながる

- ◆ 接続詞は2つの語(句)や(S + V)を含む意味のまとまりを結ぶ!
- ◆ 接続詞と前置詞の両方に使われる語に注意しよう!
- ◆ 前置詞は名詞の働きをする語(句)の前に置かれることに注意しよう!
 → 動名詞などが続くこともある。

ステップ 1

- ① (1) is visited by (2) was found by (3) Are, used by
(4) was, taken by (5) wasn't made by (6) is spoken in
- ② (1) My sister is called (Becky.)
(2) Those letters were sent to (the children.)
(3) This curry can be cooked (without fire.)
- ③ (1) with (2) in (3) at

① **速読チャレンジ** この前の日曜日、／ミユキは大好きなロックバンドのコンサートに行きました。／コンサートホールは若い人たちでとても混雑していました。／音楽はすばらしかったです、／そしてミユキはコンサートを大いに楽しみました。／彼女はふだんステレオで音楽を聞きます、／しかしコンサートの間、／彼女は生の音楽のエネルギーを感じました。／彼女はバンドの演奏に感動しました。

解説

- ① (1)(2)〈SVO〉の受け身の文。〈be 動詞 + 過去分詞 + by + 動作主〉で表す。be 動詞は(1)現在の文で主語が三人称単数なので is, (2)過去の文で主語が三人称単数なので was。
- (3)受け身の疑問文は〈be 動詞 + 主語 + 過去分詞 ~ ?〉の語順。
- (4) 疑問詞がつく受け身の疑問文は〈疑問詞 + be 動詞 + 主語 + 過去分詞 ~ ?〉の語順。
- (5)受け身の否定文。過去の否定文なので、過去分詞の前に wasn't を置く。
- (6)不特定多数の人々を示す by people は省略する。

- ② (1)〈SVOC〉の受け身の文。過去分詞のあとに補語の Becky がくる。
- (2)〈SVOO〉の受け身の文。「~へ」は to ~。
- (3)助動詞が含まれる受け身の文は〈助動詞 + be + 過去分詞〉の語順。
- ③ (1)「この地域は森で覆われています。」 be covered with ~で「~で覆われている」。
- (2)「あなたは日本文化に興味がありますか。」 be interested in ~で「~に興味 [関心] がある」。
- (3)「友里はいとこの手紙に驚きました。」 be surprised at ~で「~に驚く」。

ステップ 2

- ① (1) loved (2) painted (3) named (4) built
(5) found (6) opened (7) washed
- ② (1) was broken by (2) is written in (3) were covered with
(4) What, are spoken (5) is made from (6) can be answered (7) Who, used by
- ③ (1) surprised at (2) is, called (3) wasn't made
- ④ (1) I wasn't interested in art (at first.)
(2) These hotels are closed in winter (.)
- ⑤ (1)(例) Where was this watch made?
(2)(例) I am [I'm] called Taku at school.
- ⑥ (1) influenced
(2)(His works) made him really famous around the world after he (died.)

解説

- ① (1)「この本はたくさんの子どもたちに愛されています。」 love の過去分詞は loved。

- (2)「この絵は有名な画家によって描かれましたか。」 paint の過去分詞は painted。

(3)「彼女の赤ちゃんはエミリーと名づけられました。」name「(人)に～と名づける」の過去分詞は **named**。Emily(補語)が過去分詞のあとに置かれることに注意。

(4)「この寺はいつ建てられたのですか。」buildの過去分詞は **built**。

(5)「私の消しゴムは机の下で見つかりました。」findの過去分詞は **found**。

(6)「この箱はここから開けることができます。」openの過去分詞は **opened**。

(7)「私の車は父によって洗われたのではありません。」washの過去分詞は **washed**。

2 (1)break「～を壊す」の過去分詞は **broken**。過去の文なので was を使う。

(2)「～で書かれている」と表すときはそれが書かれたのが過去のことで時制は現在で表すのがふつう。writeの過去分詞は **written**。

(3)「～で覆われている」は **be covered with** ～で表す。

(4)主語は「何の言語」What languagesなので be 動詞は are になる。

(5)原料を加工して作られる場合は、**be made from**～〔(原料)から作られる〕。**be made of**～〔(材料)できている〕は、外見から材料が判断できる場合に用いる。

(6)助動詞を含む受け身の文の語順は〈助動詞 + **be** + 過去分詞〉。answerの過去分詞は **answered**。

(7)動作主をたずねる受け身の疑問文。〈**Who + be 動詞 + 主語 + 過去分詞 + by?**〉の形でたずねる。

3 (1)「私はその事故に驚きました。」という意味にする。「～に驚く」は **be surprised at**～。

(2)〈What do you call +(もの)～?〉の文は受け身の文〈**What is +(もの) + called**～?〉で表すことができる。

(3)「このケーキはメアリーによって作られたの

ではありません。」過去の文なので、wasn'tを**過去分詞の前に置く**。

4 (1)「～に興味[関心]がある」は **be interested in**～で表す。withが不要。

(2)「閉められている」と考えて受け身にするので、are closedとなる。「冬は[に]」は **in winter** で表す。byが不要。

5 (1)疑問詞を含む受け身の疑問文。〈**疑問詞 + be 動詞 + 主語 + 過去分詞**～?〉の語順でたずねる。「どこで」は Where。

(2)受け身で「私は学校で～と呼ばれています。」という文をつくる。I am called～ at school.の形で書くとよい。

6 (1)前後の内容からinfluence「…に影響を及ぼす」を入れると意味が通る。空所の直前に be 動詞があり、直後に(by + 動作主)があることから、influenceの過去分詞 **influenced** を入れる。

(2)語群にmade, him, (really) famousがあることから、〈SVOC〉の文が組み立てられる。around the worldは「世界中で」という意味。

全訳 価値観とは、異なる場所や異なる時代、そして異なる人々により違うものです。現在人気のある人たちの中には、彼らが生きていたときには有名ではなかった人もいます。フィンセント・ファン・ゴッホや宮沢賢治はそのような人たちのよい例です。あなたは両者が彼らの人生において多くのひどい経験をしたことを知っていますか。

フィンセント・ファン・ゴッホは1853年にオランダで生まれました。彼の最初の仕事は会社の美術商でした。すぐに彼は会社で最も優秀な美術商の一人になりましたが、病気になったために、その仕事をやめなければなりません。調子がよくなった後、彼はいくつか他の仕事をやってみました。それから彼は27歳のとき、彼は画家になることを決心しました。フランスで彼はたくさんの画家に出会い、彼らから影響を受けました。そのため彼の作風が変わり、彼の作品はより鮮やかになりましたが、彼の病気が再び悪化しました。彼は病院で絵を描き続けました。彼の作品は彼の死後、彼を世界中でも有名にしました。実は、彼は2,100点以上の美術作品を遺しましたが、生前に売れたのはたったの数点でした。今では彼の作品は世界中のとても多くの人々に愛されています。

🔗入試につながる

◆受け身の基本形は〈be 動詞 + 過去分詞 (+ by + 動作主)〉！

◆〈SVOC〉の文や助動詞が含まれる文の受け身は語順に注意！

◆動作主が一般の人々の場合や動作主を言う必要がないとき、〈by + 動作主〉は省略される！

ステップ
1

- 1 (1) visit (2) borrow (3) read (4) drink (5) is
- 2 (1) to eat (2) to make (3) to read (4) something to (5) to help
- 3 (1) I'm happy to come to (the party.)
(2) I have something to show you (in the kitchen.)
(3) (What) do you want to be (in the future?)
(4) My hobby is to climb mountains (with my father.)

① 速読チャレンジ ある日、／アンディは会社の近くのビルズ・ステーキハウスに行きました／遅い昼食を食べに。／けれども、／彼がそこに着いたとき、／レストランは閉まっていることに気づきました。／彼はそれを知ってがっかりしました。／彼は別のレストランでステーキランチを食べました、／しかしそれを楽しみませんでした。／ステーキは香辛料がききすぎていました、／そのため彼は昼食のあとで冷たい飲み物がほしくなりました。

解説

- 1** (1)(2)主語が三人称単数でも、また過去の文の中であっても、不定詞は<to + 動詞の原形>の形。
(1) to visit the museum 「美術館を訪れること」は**名詞用法**。want to ~で「~したい」。
(2) to borrow books 「本を借りるために」は**副詞用法**。
(3) to read 「読むべき」は**形容詞用法**で、many e-mails を修飾している。
(4) to drink 「飲むための」は**形容詞用法**で、something を修飾している。日本語にするときは「何か飲むもの」とすると自然。
(5) 名詞用法の不定詞(~すること)が主語となる場合は、常に**単数扱い**。
2 (1) like to ~ 「~するのが好きである」の否定文。

- (2) 「つくるために」は to make で表す。
(3) **be surprised to ~**で「~して驚く」。to 以下では「驚いた」理由を述べている。
(4) 「何か飲み物」は「飲むための何か」と考えて **something to drink**。
(5) someone 「だれか」に to help me 「私を手伝うための」を続けて、後ろから someone を修飾する形で表す。
3 (1) 「よろこんで~する」は be happy to ~。
(2) 「君に見せるための何か」と考えて something to show you とする。
(3) 「(~)になりたい」は want to be ~。
(4) my hobby 「趣味」が主語。「山に登ること」は to climb mountains。

ステップ
2

- 1 (1) ア (2) イ (3) エ (4) ウ (5) エ
- 2 (1) doesn't want (2) happy[glad] to (3) to run (4) to do (5) to go
(6) to take (7) to play (8) to ask (9) to say
- 3 (1) to do (2) to see
- 4 (1) I have something to tell you (today.)
(2) (What) did you do to make them happy (?)
(3) Tom doesn't have enough time to sleep (.)
- 5 (1) (例) London is a great place to visit.
(2) (例) I want to be[become] a doctor (in the future).
- 6 (1) trying

解説

- 1** (1) to を speak の前に置き、to speak foreign languages 「外国語を話すこと」とする。

(2)形容詞と不定詞の両方が代名詞 something を修飾するときは、**〈something + 形容詞 + 不定詞〉**の語順。

(3)to を learn の前に置き、to learn new words 「新しい言葉を学ぶために」とする。

(4)**try to ~**で「~しようとする」。try to read some English books 「英語の本を数冊読もうとする」とする。

(5)**be surprised to ~**で「~して驚く」。get は to のあとに置く。to 以下は「驚いた」理由を述べている。

2 (1)want to ~ 「~したい」の否定文。主語が三人称単数なので want の前に doesn't を置く。

(2)「~してうれしい」は **be happy[glad] to ~** で表す。

(3)「~しようとする」は try to ~ で表す。「もっと速く」は比較級を使って **faster** で表す。

(4)「~するのが好きだ」は like to ~。「する」は do で表す。

(5)「海外に行くために」は **to go abroad**。

(6)〈someone + 不定詞〉の語順。「~の世話をする」は **take care of ~** で表す。

(7)「卓球をすること」は to play table tennis。

(8)「~したいのですが」は **I would['d] like to ~** で表す。

(9)「言うために」は to say で表す。

3 (1)「私たちは先週たくさん宿題をしなけりませんでした。」⇒「私たちは先週するべき宿題がたくさんありました。」の書きかえ。a lot of homework を不定詞の to do が**後ろから修飾する形**にする。

(2)「あなたはこの美術館で多くのものを見ることができます。」⇒「この美術館には見るべき多くのものがあります。」の書きかえ。many things を不定詞の to see が**後ろから修飾する形**にする。なお、There are many things to see

in this museum. でも同様の意味を表せる。

4 (1)「あなたたちに伝えたいこと」は something to tell you で表す。There is something to tell you today. でも同様の意味を表せる。

(2)「彼らをよろこばせるために」は **make 「(人・もの)を~の状態にする」** を使って to make them happy で表す。

(3)不定詞 to sleep 「寝るための」が後ろから enough time 「十分な時間」を修飾する形。

5 (1)「ロンドンはとてもよい場所」を London is a great place で表し、a great place を**形容詞用法**の不定詞 to visit 「訪れるための」で修飾する。

(2)「(将来)私は~になりたい。」を **I want to be[become] ~ (in the future)**. で表す。将来の夢をたずねる表現 **What do you want to be in the future?** 「あなたは将来何になりたいですか。」と一緒に覚えておくとよい。

6 (1)前後の内容と空所直後に to があることから、try to ~ 「~しようとする」の文にすると意味が通る。空所直前に are があることから、try を **trying** にし、現在進行形にする。

全訳 私たちは1人では生きていけません。だから私たちは毎日、他人とよい関係をもとうとします。私たちは成功することもあれば失敗することもあります。それらの経験を通して、私たちは自分自身のコミュニケーションスタイルをつくっていくのです。

しかし、知らない人と話すのは難しいです。そして他人と仲良くなるのはもっと難しいです。多くの人たちが緊張して他人と彼らの関係を心配します。人々は「笑うべきだろうか。何を話すべきだろうか。人と仲良くなるのが得意になるにはどうしたらよいか。」と考えるかもしれません。

実際に、多くの人たちがコミュニケーションスキルについて心配しています。彼らはよりよいコミュニケーションスキルを身に付けるよい方法を見つけようとしています。人と話すときにあまりに緊張してしまう人もいます。中には考えすぎて話すことを楽しめない人もいます。だからコミュニケーションスキルについてのたくさんの本やテレビ番組があるのです。インターネットでは、彼らの問題をどのように解決するかを彼らに教える多くのウェブサイトの人々は訪れることもできるのです。

🔗入試につながる

◆名詞の働きをする不定詞は「~すること」→動詞の目的語や補語・主語になる！

◆副詞の働きをする不定詞は動詞・形容詞を修飾！

◆形容詞の働きをする不定詞は直前の名詞・代名詞を修飾→〈名詞[代名詞] + 不定詞〉の語順に注意！

ステップ 1

- 1 (1) It, to (2) Is it (3) for, to (4) how to (5) to come (6) helped, carry
 2 (1) It is important to eat (breakfast every day.)
 (2) (He knows) how to take good pictures (.)
 (3) (The doctor) told me to take medicine (.)
 (4) (Robert) wants me to call him (Bob.)
 (5) Let us use this room (tomorrow.)

① **速読チャレンジ** 健康を保つために、／私たちは毎日いくらかの運動が必要です。／例えば、／毎朝公園を走る人がいます。／プールで泳ぐのが好きな人もいます。／毎日家でストレッチ体操をするのならば、／それも健康によいでしょう。

解説

- 1 (1) 〈It is + 形容詞 + 不定詞～.〉の文。It は to 以下の内容を指す形式主語。
 (2) 〈It is + 形容詞 + 不定詞～.〉の疑問文。be 動詞を文頭に置いて疑問文にする。答えるときは Yes, it is./No, it is not[isn't]. で答える。
 (3) for me 「私にとって」は不定詞の意味上の主語を示し、**不定詞の直前**に置く。
 (4) 「～のし方」は how to ～で表す。日本語にするとときは「～する方法」、「どのように～すべきか」など場合によって自然な日本語にするとよい。
 (5) 〈ask + (人) + 不定詞〉で「(人)に～するように頼む」。to 以下に頼みたい内容がくる。
 (6) 〈help + (人) + 動詞の原形〉で「(人)が～す

るのを助ける[手伝う]」。yesterday があるので help を過去形 helped にする。

- 2 (1) 〈It is + 形容詞 + 不定詞～.〉の文。
 (2) 「よい写真の撮り方」は how to take good pictures で表す。この〈how + 不定詞〉は knows の目的語。
 (3) 「(人)に～するよう言う」は〈tell + (人) + 不定詞〉で表す。
 (4) 〈want + (人) + 不定詞〉「(人)に～してほしい」の文に〈call + A + B〉「A を B と呼ぶ」の形が含まれる文。
 (5) 「(人など)に～させる」は〈Let + (人など) + 動詞の原形～.〉で表す。動詞は to をつけない**原形不定詞**を使うことに注意。

ステップ 2

- 1 (1) It's, buy[get] (2) what to (3) asked, to (4) wasn't, for
 (5) Let, sleep (6) where, go (7) want you (8) help, find
 2 (1) how to play
 (2) It is, to
 (3) told, to speak
 3 (1)②→ take (2)③→ where to (3)③→ to get up (4)②→ to paint
 4 (1) Do you know what to do to (save animals?)
 (2) It is fun for Becky to speak Japanese (.)
 (3) I was too sleepy to read the book (.)
 5 (1)(例) Please let me know your address.[Let me know your address(, please).]
 (2)(例) I want to learn how to play the violin.
 (3)(例) Can you tell me what to bring tomorrow?
 6 (1)ウ

- 1 (1)〈It is + 形容詞 + 不定詞～.〉の文。空所の数から It is の短縮形 It's を入れる。
 (2)「何をすべきか」は **what to do** で表す。
 (3)〈ask + (人) + 不定詞〉で「(人)に～するように頼む」。日本語に合うように ask を過去形 asked にする。
 (4)〈It is + 形容詞 + for + (人) + 不定詞～.〉の文。過去の否定文だが、空所の数から was not の短縮形 wasn't を入れる。
 (5)「(人など)に～させる」は〈Let + (人など) + 動詞の原形～.〉で表す。
 (6)「どこへ～すべきか」は **where to ～**。
 (7)「(人)に～してほしい」は〈want + (人) + 不定詞〉で表す。want to ～「～したい」との混同に注意。
 (8)「(人)が～するのを助ける[手伝う]」は〈help + (人) + 動詞の原形〉で表す。「～を見つける」は **find**。
- 2 (1)「私はドラムを演奏できません。」〈can't + 動詞の原形〉「～できない」⇒ **don't know how to ～**「～する方法を知らない」の書きかえ。
 (2)「野球の試合を見るのはわくわくします。」不定詞が主語の文⇒〈It is + 形容詞 + 不定詞～.〉の文に書きかえ。
 (3)「鈴木先生は私たちに、『毎日英語を話さない』と言いました。」⇒「鈴木先生は私たちに毎日英語を話すよう言いました」の書きかえ。「(人)に～するよう言う」は〈tell + (人) + 不定詞〉を使って表すことができる。
- 3 (1)「ここで数枚写真を撮らせてください。」〈Let + (人など) + 動詞の原形～.〉の文。**動詞は原形**にするので、**to take ⇒ take** に直す。
 (2)「その男性は私たちにどこで切符を買えばよいか教えてください。」「どこで～すべきか」は **where to ～** で表す。疑問詞の後に不定詞が続く語順。
 (3)「あなたにとって早く起きることは難しいで

すか。」〈It is + 形容詞 + for + (人) + 不定詞～.〉の疑問文。to get up とする。

(4)「私にこれらの壁を塗ってほしいですか。」〈want + (人) + 不定詞〉の文。to paint とする。

- 4 (1)「何をすべきか」を **what to do** で表す。「する」は動詞 do。「動物たちを救うために」は副詞用法の不定詞「～するために」を使い、to save animals で表す。how が不要。

(2)「日本語を話すこと」to speak Japanese の意味上の主語を「ベッキーにとって」for Becky で表す。of が不要。

(3)「あまりに～で…できない」は〈too + 形容詞 + to + 動詞の原形〉で表す。for が不要。

- 5 (1)「私に知らせる」と考えて let me know とする。丁寧なお願いの命令文として please をつけるとよい。

(2)「～したい」は want to ～ で表す。「～の仕方」は〈how + 不定詞〉なので、「バイオリンの弾き方」は how to play the violin。

(3)与えられた語に can があるので、**Can you ～?**「～してくれませんか。」を使い、「私に～を教えてくださいませんか。」という文にする。「明日の持ち物」は「明日何を持ってくるべきか」と考え、〈what + 不定詞〉を使って、**what to bring tomorrow** で表す。

- 6 ジュディの最初の発言で「腕時計をなくしたのであなたに電話しています。あなたの家で見ましたか。」とあるので、「ジュディはケンに時計を探してほしい」という内容を表すウが正解。

全訳

ケン : もしもし、こちらはケンです。

ジュディ : こんにちは、ケン。ジュディです。昨日はパーティーに招いてくれてありがとうございます。ええと、私は腕時計をなくしたのであなたに電話をしています。あなたの家で見ましたか。

ケン : いいえ、見ていません。家を確認してみます。

ジュディ : ありがとうございます。もしあなたがそれを見つけたら私に電話をください。それではまたね。

🔗入試につながる

- ◆〈It is + 形容詞 + 不定詞～.〉の It は不定詞の内容を指す!
- ◆〈S + V + O(人) + 不定詞〉では、O(人)と不定詞は「～が…する」の関係!
- ◆原形不定詞は「動詞の原形そのままの形」で to をつけない!

ステップ 1

- 1 (1) walking (2) teaching (3) coming (4) cleaning (5) Reading
 2 (1) to drink (2) dancing (3) eating (4) talking
 (5) to go (6) to see (7) taking
 3 (1) Getting up early is hard (for me.)
 (2) I finished doing my homework (yesterday.)
 (3) What do you want to have (for dessert?)
 (4) (Can) you cook without using water(?)

① **読解チャレンジ** マリコは携帯ストラップを集めるのが好きです。／彼女は毎日違ったストラップを付けて楽しめます。／彼女のお気に入りのストラップの1つは／小さなネコのフィギュアの付いたものです。／彼女はインターネットでおもしろいストラップを見つけることができます。／それで、彼女はときどきオンラインショップをチェックします。／そして、そこからストラップを注文します。

解説

- 1 (1) 「～することが好き」は動名詞を使って like ~ing で表す。
 (2) 「教えること」は不定詞を使って to teach でも表せるが、空所の数が1つなので、teaching が正解。〈SVC〉のC(補語)が動名詞である文。
 (3) How about ~ing? で「～してはどうですか。」という誘い・提案の表現。come は e をとって ing をつける。
 (4) finish ~ing で「～し終わる」。
 (5) 動名詞は主語にもなる。Reading comic books 「漫画を読むこと」が主語。
- 2 (1) want to ~で「～したい」。
 (2) practice は目的語に動名詞をとるので dancing を選ぶ。
 (3) look forward to ~ing で「～するのを楽

しみにする」。to につられて動詞の原形を続けないように注意。

- (4) enjoy ~ing で「～することを楽しむ」。
 (5) decide to ~で「～することを決心する」。
 (6) hope to ~で「～することを望む」。
 (7) be good at ~ing で「～することが得意である」。
- 3 (1) getting up early が主語の文にする。
 (2) finish は動名詞を目的語にとる動詞。doing my homework で「宿題をすること」。
 (3) What で始まる疑問文にする。「～したい」は want to ~。食べるは have。
 (4) 「～せずに」は動名詞を使って without ~ing で表す。

ステップ 2

- 1 (1) thinking (2) running (3) listening (4) coming (5) leaving (6) riding
 2 (1) speaking, reading
 (2) visiting, staying
 (3) taking, going
 3 (1) learning (2) working (3) good, dancing (4) Studying, is
 4 (1) I like taking care of children (.)
 (2) Being kind to old people is (important.)
 5 (1) (例) I finished washing my father's car.
 (2) (例) How about having[eating] lunch together?
 6 (1) working
 (2) イ

- 1 (1)「～について考える」は think about ～で表す。begin は不定詞と動名詞のどちらも目的語にとり、意味はほぼ同じ。ここでは空所の数が1つなので、thinking が入る。
- (2) like は不定詞と動名詞のどちらも目的語にとり、意味はほぼ同じ。ここでは空所の数が1つなので、running を入れる。
- (3) enjoy は動名詞を目的語にとるので、「～することを楽しむ」は enjoy ～ing で表す。
- (4) Thank you for ～ing. は相手に感謝を伝えるときによく使われる表現。前置詞 for のあとに動名詞を続けることに注意。
- (5) 動名詞は前置詞の目的語にもなるので、前置詞 before のあとに leaving home を続ける。
- (6) practice ～ing で「～することを練習する」。「自転車に乗る」は ride a bike。
- 2 (1) A「あなたは日本語を話すことは難しいと思いますか。」動名詞を使って「日本語を話すこと」を speaking Japanese で表す。B「はい。でもそれ(=日本語)を読むことは私にとってもっと難しいです。」動名詞を使って「それを読むこと」を reading it で表す。
- (2) A「私はアメリカであなたを訪ねることを楽しみにしています。」look forward to ～ing で「～するのを楽しみにする」。この to は前置詞なので、動名詞が続くことに注意。B「わくわくします。あなたが私たちと滞在することを楽しんでくれるといいです。」enjoy は動名詞を目的語にとるので、enjoy staying にする。
- (3) A「アサヒ公園まで電車に乗っていくのはどうですか。ずっと速いし、そこ(=アサヒ公園)でもっと多くの時間を過ごせます。」How about ～ing? で「～するのはどうですか」。「電車に乗る」は take a train で表す。take は e をとって ing をつける。B「それはよい考えですね。公園に行く前に昼食を買いましょう。」空所の前に前置詞 before があるので、空所には動

名詞 going が入る。前置詞は名詞の働きをする語(句)の前に置かれる。

- 3 (1) like to ～⇒ like ～ing の書きかえ。
 (2) start to ～⇒ start ～ing の書きかえ。
 (3)〈動詞+ well〉を使った文⇒ be good at ～ing を使った文の書きかえ。
 (4)不定詞を使った構文⇒動名詞を主語にした文の書きかえ。動名詞は常に三人称単数扱いなので、be 動詞は is。
- 4 (1)「～の世話をする」は take care of ～。
 (2)動名詞が主語の〈SVC〉の文。「～に親切でいること」は being kind to ～で表す。
- 5 (1)「～し終える」は finish ～ing で表す。「(私の)父の車」は my father's car となる。
 (2)与えられた語に about があるので、How about ～ing? 「～してはどうですか。」でたずねる。「昼食を食べる」は have[eat] lunch。
- 6 (1)work 「取り組む」を入れると意味が通る。空所の前に be 動詞 are があるので、working の形にして現在進行形の文にする。
 (2)前後の内容から、ポルトガル国民が再生可能エネルギーに対して前向きな姿勢を持っていることがわかるので、イが正解。

全訳

今日では、世界中でますます多くの人々が、環境を破壊することなくどのようにして電力を作り出すかについて考えています。だから新しいテクノロジーや国家間での協力がより重要になりました。その事実を学ぶために3つの話を共有しましょう。

2016年、ポルトガルはエネルギーの試験を試してみました。彼らは風、水、そして太陽光といった再生可能エネルギーのみを使用しました。彼らは国全体に必要とするすべての電力を作り出すことができました。今では政府と企業が一体となって風力発電所のような新しい発電所を作ろうと取り組んでいます。彼らはより多くの再生可能エネルギーを使いたいと思っています。なぜならそのエネルギーは石油を節約し、環境を守ることができるからです。国民は、再生可能エネルギーを使うことは、石油を燃やすよりも、環境を守るためにずっとよいと考えています。彼らのゴールは汚染を止め、より多くのエネルギーを所有し、経済的な成長を得ることです。

🔗入試につながる

- ◆動名詞は「～すること」という意味の「ひとまとまりの名詞」をつくる！
- ◆動名詞は文の中で目的語・主語・補語になる！
- ◆目的語は動名詞か不定詞か？→動詞によって決まる！

ステップ 1

- ① (1) playing (2) written (3) broken (4) singing (5) running (6) spoken
 ② (1) made (2) reading (3) sent (4) wearing
 ③ (1) The teacher wearing glasses is (Ms. Suzuki.)
 (2) I want a chair made in (Italy.)
 (3) (The girl) called Meg came to our class (.)
 (4) (I don't) have any books written by (Natsume Soseki.)

① **速読チャレンジ** 先週の金曜日、／タカシは市の博物館を訪れました。／彼はそこで興味深いものをたくさん見ました。／彼は狩猟道具に魅了されました／そして木でできた食器に。／それらはすべて古い遺跡で発見されました。／それを見ながら、／彼はその当時の人々の暮らしを想像しました。／その博物館で時間を過ごすのは、タカシにとってとてもわくわくしました。

解説

- ① () の直前の名詞との関係が「～している…」なら**現在分詞(～ing形)**を、「～された[される]…」なら**過去分詞**を選ぶ。
 (2)(3)(6)過去分詞の形に注意。
 ② (1)「私の母によって**作られた**人形」と考えて、**過去分詞 made**にする。
 (2)「木の下で本を**読んで**いる生徒」と考えて、**現在分詞 reading**にする。
 (3)「イギリスから**送られてきた**手紙」と考えて、**過去分詞 sent**にする。
 (4)「青いドレスを**着ている**ダンサー」と考えて、**現在分詞 wearing**にする。

- ③ (1)「**眼鏡をかけている**先生」が主語。「眼鏡をかける」は wear glasses。**現在分詞**を使って the teacher **wearing** glasses と表す。
 (2)「**イタリア製の**いす」は「**イタリアで作られた**いす」と考えて、**過去分詞**を使って a chair **made** in Italy と表す。
 (3)「**メグと呼ばれる**女の子」が主語。**過去分詞**を使って the girl **called** Meg と表す。
 (4)「**夏目漱石によって書かれた**本」は**過去分詞**を使って any books **written** by Natsume Soseki と表す。

ステップ 2

- ① (1) flying (2) used (3) named (4) built (5) sitting
 ② (1) drawn by (2) seen, look (3) bag made
 ③ (1) ア (2) ウ (3) ウ
 ④ (1) Do you know the girl dancing over there (?)
 (2) The cat sleeping under the desk is called (Lulu.)
 ⑤ (1)(例) I have a sister working in Tokyo. (2)(例) Tom likes watches made in Japan.
 (3)(例) Who is the boy wearing a red T-shirt?
 ⑥ (1) A: lived B: working
 (2) showed 86 different shapes of snow crystals and how he caught them

解説

- ① (1)「**飛んでいる**鳥」は**現在分詞 flying**を使って表す。**birds**を修飾する語は **flying 1語**なので、**birds**の前から修飾し、flying birds とする。
 (2)「**中古車**」は**過去分詞 used**を使って表す。

- carsを修飾する語は used 1語なので、carsの前から修飾し、used cars となる。
 (3)「**名づけられた**」は name を **過去分詞 named** にして表す。The boy named Harry

「ハリーと名づけられた少年」が主語。

(4) many old temples を、過去分詞を使って後ろから修飾する。build の過去分詞は **built**。

(5) the girl を**現在分詞**を使って後ろから修飾する。sit の～ing 形は sitting。

2 (1) 「彼によって描かれた絵」と考え、the pictures drawn by him とする。

(2) 「ここから見られる山」と考え、the mountains seen from here と表す。**主語は the mountains** なので、文全体の動詞の形は look にすることに注意。

(3) 「私の父によって作られたかばん」と考え、a bag made by my father とする。

3 (1) 「その試合を見ていた野球ファンはとてもわくわくしているように見えました。」という文になるように、The baseball fans のあとに watching the game を続ける。**The baseball fans watching the game までが主語。**

(2) 「インドで話されている言語は何ですか。」という文になるように、the languages の直後に spoken in India を続ける。

(3) 「窓のそばに立っている男性が見えますか。」という文になるように、the man のあとに standing by the window を続ける。

4 (1) 「あそこで踊っている」dancing over there が the girl を後ろから修飾する。

(2) 語群に sleeping, called があるので、名詞を修飾する分詞なのか、文全体の動詞なのかを見極める。「ネコはルルと呼ばれている」だから、受け身 (be 動詞 + 過去分詞) で表し、The cat is called Lulu. となる。「机の下で眠っている」が「ネコ」を後ろから修飾しているので、The cat sleeping under the desk is called Lulu. となる。

5 (1) 「東京で働いている姉」は a sister working in Tokyo で表す。

(2) 「日本製」は「日本で作られた」と考え、

made in Japan で表し、watches を後ろから修飾する。

(3) 「～はだれですか」は、Who is ～? の疑問文で表す。「赤い T シャツを着た」wearing a red T-shirt が「男の子」the boy を後ろから修飾する。

6 (1) A 「そこにいる人たちは雪とともに暮らしてきた。」という文にすると意味が通る。空所の直前に have があることから、**現在完了形 (have + 過去分詞)** で表す。live の過去分詞は lived。B 「徳川幕府に仕えていた殿様」となるように、work を**現在分詞 working** にして入れる。

(2) 語群に showed, caught の2つの動詞があることに注意する。showed が「雪の結晶」と「それらをどのようにして手に入れたのか」の**2つの目的語をとる文**にすると意味が通る。

全訳

あなたは冬をどのように過ごしますか。スキーやスノーボードを楽しみますか。今までに雪や氷で遊んだことはありますか。もしあなたがあまり雪の降らない地域に住んでいるのなら、雪は冬に数回見るものかもしれませんし、テレビのニュースや本を通して体験するものかもしれません。もしあなたが雪の降る地域に住んでいるのなら、雪は生活の大切な一部です。そこにいる人たちは雪とともに暮らしてきました。

雪が降ると、最後には溶けて水になります。それで人々は経験上、雪は水からできていることを知っています。そして彼らは雪が異なる状態で降ることも知っています。例えば、乾いていて軽い種類の雪もあれば、湿っていて重い種類の雪もあります。人々が雪を顕微鏡で観察すると、雪の結晶が見えます。人々は雪の結晶については知っていますが、ほとんどの人々は雪が日本で長い間研究されてきたことは知りません。

1800年代に、日本で雪が顕微鏡で観察されました。徳川幕府に仕えていた殿様が雪の結晶の美しさに魅了されました。彼は雪の結晶を冷やした布切れで手に入れて、彼の顕微鏡の下に置きました。それから彼はそれらの絵を描きました。これは日本で雪について行われた、最初の科学的な研究の1つかもしれません。のちに本の中で、彼は86の異なる形の雪の結晶と、彼がどのようにしてそれらを手に入れたのかを示しました。その美しい形は江戸時代の人々の間でとても人気になり、彼らは服や道具にそのデザインを用いました。

GO入試につながる

◆現在分詞は「～している」、過去分詞は「～された[される]」という意味の「ひとまとまりの形容詞」を作る！

◆分詞の位置は名詞の前または後ろ！

◆現在分詞や過去分詞を含む文→まず(S + V)を先に押さえてから、分詞を見極める！

ステップ 1

- ① (1) who (2) that (3) which (4) which (5) that (6) that
 ② (1) which[that] (2) which[that] (3) who[that] (4) that
 ③ (1) I bought a watch which[that] was made in France(.)
 (2) We'll stay in a hotel which[that] has a big pool(.)
 (3) Let's listen to the song which[that] Lisa sang yesterday(.)

① **読解チャレンジ** カズオと彼の家族は、昨年の夏、ハワイに行きました。／ハワイは場所の1つでした／カズオがぜひ訪れたかった。／ハワイに滞在している間、／カズオは毎日海で泳いで楽しみました。／夕方になると、／カズオと彼の家族は、浜辺で夕日を見ました。／カズオは夕日のことを決して忘れないでしょう／ハワイで見た。

解説

- ① (1) 先行詞は **a friend**(人)なので、関係代名詞は **who** が適切。
 (2) 先行詞は **the picture**(もの)なので、関係代名詞は **that** が適切。
 (3) 先行詞は **the temples**(もの)なので、関係代名詞は **which** が適切。
 (4) 先行詞は **a lot of English words**(もの)なので、関係代名詞は **which** が適切。
 (5) 先行詞は **the only restaurant**(もの)なので、関係代名詞は **that** が適切。なお、先行詞に **only** があるので、その点でも関係代名詞は **that** を使うのが好ましい。
 (6) 先行詞は **the train**(もの)なので、関係代名詞は **that** が適切。
- ② (1) 先行詞は **a book**(もの)なので、関係代名詞は **which[that]**。
 (2) 先行詞は **the words**(もの)なので、関係代名詞は **which[that]**。
 (3) 先行詞は **many students**(人)なので、関係代名詞は **who[that]**。
 (4) 先行詞に **first** などが含まれるときは、関係代名詞は **that** を使うのが好まれる。
- ③ (1) 先行詞は **a watch**(もの)なので、関係代名詞は **which[that]** を使う。
 (2) 先行詞は **a hotel**(もの)なので、関係代名詞は **which[that]** を使う。
 (3) 先行詞は **the song**(もの)なので、関係代名詞は **which[that]** を使う。

ステップ 2

- 1 (1) key (2) basketball (3) dictionary (4) teacher
 2 (1) who[that] called (2) that I (3) which[that] he (4) I read
 (5) which[that], were (6) that, know (7) who[that] wrote (8) who[that] was
 3 (1) I have a brother who[that] is a doctor.
 (2) Yuka wants a car which[that] runs fast.
 (3) People (who[that] were) invited to the party looked excited.
 4 (1) (I'll tell you) three things you should do in Japan (.)
 (2) I have a friend who is called (Mei)
 5 (1) (例) Japanese and English are the languages (which[that]) they speak.
 (2) (例) The movie (which[that]) I saw yesterday was exciting.
 (3) (例) Please show me the pictures (which[that]) you took.
 [Can[Will] you show me the pictures (which[that]) you took?]
 6 (1) lives (2) 工

解説

- 1 (1)「ドアを開けるために使うもの」は key 「鍵」。
 (2)「各チーム 5 名で行われるスポーツ」は basketball 「バスケットボール」。
 (3) you use の前に関係代名詞の **which[that]** が省略されていることに注意。「勉強するときを使う厚い本」は dictionary 「辞書」。
 (4)「学校で教える人」は teacher 「先生」。
- 2 (1)先行詞は **the person**(人)なので、関係代名詞は **who[that]** が適切。
 (2)先行詞が **anything** なので、関係代名詞は **that** を使うのが好ましい。
 (3)関係代名詞は省略可能だが、空所の数から判断し、先行詞 the CD に合わせて **which[that]** を入れる。
 (4)「記事」The article を「私が昨日読んだ」I read yesterday が後ろから修飾する。先行詞が read の目的語になることと、空所の数から判断して関係代名詞 **which[that]** は省略する。
 (5)先行詞は The vegetables(もの)なので関係代名詞は **which[that]**。「～される」は受け身 **(be 動詞 + 過去分詞)** で表す。be 動詞は The vegetables に合わせて複数の were にする。
 (6)先行詞が **everything** の場合は関係代名詞は **that** を使うのが好ましい。関係代名詞は省略可能だが、空所の数から判断し省略しない。
 (7)先行詞は the singer(人)なので、関係代名詞は **who[that]** が適切。
 (8)先行詞は The boy(人)なので、関係代名詞は **who[that]** が適切。「～と一緒にいる」は be 動詞を使って表す。
- 3 (1)先行詞 a brother について、関係代名詞 who が he(= a brother)の代わりになって説明を加えているので、who のあとの he が不要。
 (2)a car と runs は「～が…する」の関係で、主語 a car に「速く走る」という説明を加えるので、関係代名詞は**省略できない**。先行詞は a car (もの)なので関係代名詞は **which[that]**。

(3)先行詞 People と invite は「～が…される」という受け身の関係なので、関係代名詞 who のあとに受け身 **(be 動詞 + 過去分詞)** の形を続ける。先行詞 People は複数なので、be 動詞 are の過去形 were を **who の直後** に入れる。People invited to ～として過去分詞 invited による後ろからの修飾としてもよい。

- 4 (1)「3つのこと」three things を「あなたが日本ですべき」you should do in Japan が後ろから修飾する。
 (2)「友達」a friend を「メイと呼ばれる」who is called Mei が後ろから修飾する。
- 5 (1)「彼らの話す」they speak が「言語」the languages を修飾。
 (2)「私が昨日見た」I saw yesterday が「映画」the movie を修飾。
 (3)「あなたが撮った」you took が「写真」the pictures を修飾。
- 6 (1) **live 「住んでいる」** を入れると意味が通る。空所の前に関係代名詞 who があり、先行詞は a friend なので、動詞の形は **lives** にする。
 (2)空所の前までは携帯電話やコンピュータの弱点について述べられており、空所の直後の文では「私たちはその状況について何かする必要がある」と述べられていることから、工が適切。

全訳

今、私たちはテクノロジー、特にコミュニケーションツールのおかげで便利な世界に暮らしています。もし私たちが電話を使えば、遠方に住む友人と簡単に話すことができますし、携帯電話やコンピュータを通して顔を見ることがさえもできます。そのようなツールはとても便利なので、私たちにとってそれらのない生活を想像することはとても難しいです。

しかしながら、携帯電話やコンピュータは悪い点もあります。例えば、災害が起きた際にはそれらはうまく機能しません。もし日本で大きな地震が起きて電気のネットワークを破壊したら、私たちは家族と連絡を取れません。私たちの社会はテクノロジーの便利さに頼りすぎているのかもしれませんが、私たちはその状況について何かする必要があります。

🔗 入試につながる

- ◆〈関係代名詞 + 説明〉は先行詞となる名詞を後ろから修飾する！
- ◆関係代名詞は先行詞によって使い分ける！
- ◆関係代名詞の省略や、文全体の動詞の見極めに注意！

ステップ 1

- ① (1) will (2) going to (3) are, going to
(4) will not (5) will (6) is going to
- ② (1) can (2) may (3) has to (4) mustn't (5) May
- ③ (1) You should read more books (next year.)
(2) He doesn't have to go (to school tomorrow.)
(3) I will not do my homework (tonight.)

① 速読チャレンジ ある日、ヒロシは鎌倉の古い寺を訪れました。／彼は寺の外で写真数枚を撮れました。／本堂に入ると、／彼は壁に貼られた注意書きを見ました。／それには書いてありました。／「建物内の写真撮影禁止」と。／あとになって彼は知りました。／カメラのフラッシュが古い彫像や絵画に悪影響を与えうということ。

解説

- ① (1)話し手の意志と関係ない**未来の予定**を述べた文なので助動詞 **will** を入れる。
(2)未来の予定は **be going to** でも表せる。be 動詞は主語に合わせる。
(3) **be going to** を使った、疑問詞で始まる疑問文。be 動詞の疑問文と同じ形。
(4)未来のことを予想している文。空所の数から、短縮形の won't ではなく **will not** が適切。
(5)「買ってくる」という話し手の意志を述べているので、**will** が適切。
(6) **be going to** の be 動詞は**主語に合わせる**。Ken は三人称単数なので be 動詞は **is**。
- ② (1)「～できる」という**能力**を述べるときは、**can** を使う。
(2)「～してもよい」という**許可**の意味を表す

助動詞は **may**。

- (3)「～しなければならない」という**義務**を表すのは **have[has] to**。
(4)「～してはいけない」という**禁止**の意味を表すのは、**must not[mustn't]**。don't have to ～は「～しなくてもよい」という意味で、〈禁止〉ではない。
(5)「話しかけてもよいですか」と**許可**を求めているので、**May I ~?** の形にする。
- ③ (1) **should** は「～すべきだ」という意味の助動詞。主語 **you** のあとに置く。
(2)「～する必要がない」は**don't[doesn't] have to + 動詞の原形**の語順。
(3) **will** を使った文の否定文は**主語 + will not[won't] + 動詞の原形**の語順。

ステップ 2

- 1 (1)イ (2)ア (3)ア (4)ウ (5)イ (6)ウ (7)ア
- 2 (1) Will[Can] you (2) don't have (3) May[Can] I
(4) must be (5) can't[cannot] cook (6) able to
- 3 (1) may (2) mustn't[can't/cannot] eat
- 4 (1) I won't take my umbrella with me (today.)
(2) This book should be read by (many people.)
- 5 (1)(例) You do not[don't] have to buy[get] anything.
(2)(例) You must[should] be quiet.
- 6 (1)①(例) Yes, they did.
②(例) They can understand the things which they should do.

解説

- ① (1)「～しなくてはならない」という意味を表す

のは **have[has] to**。

(2) next yearがあるので、未来の文。未来を表す助動詞は will。

(3) should は「～したほうがよい」と人に何かを控えめにすすめるときにも使う。

(4) have to を使った疑問文は〈Do you have to + 動詞の原形～?〉の語順にする。

(5) 「～かもしれない」というあいまいな〈可能性〉を述べているので、may が適切。must は「～にちがいない」。

(6) 話し手の意志を表す助動詞は will。I'll は I will の短縮形。

(7) 「～する必要はない」は don't[doesn't] have to ～。shouldn't は「～すべきではない」、mustn't は「～してはいけない」。

2 (1) 「～してくれますか」と依頼するときは Will[Can] you ～? の形を使う。

(2) have[has] to ～の否定文の語順は〈主語+ don't[doesn't] have to + 動詞の原形～〉の語順。

(3) 「～してもよいですか」と相手に許可を求めるときは May[Can] I ～? の形でたずねる。

(4) 「～にちがいない」は must。「(～に)いる」は be 動詞で表せるので must be ～とする。

(5) can 「～できる」の否定文。主語のあとに can't[cannot] を置く。

(6) 「～できた」は was[were] able to ～。

3 (1) 「宿題のためにインターネットを使ってもよいですよ。」と〈許可〉を表す助動詞は can と may。can は「～できる」という人の〈能力〉だけでなく、このように「選択肢として可能である」という場合にも使える。

(2) 「この部屋で食べてはいけません。」〈Don't + 動詞の原形～〉と〈You mustn't[can't/cannot] + 動詞の原形～〉は、どちらも相手に対する〈禁止〉を表す。

4 (1) 未来を表す否定文なので、〈won't + 動詞の

原形～〉の語順にする。「(携帯して)～を持っていく」は〈take ～ with + 人〉で表す。

(2) 助動詞を使った受け身の文は、〈助動詞 + be + 過去分詞～〉の語順。

5 (1) 「～する必要はない」は〈don't[doesn't] have to + 動詞の原形〉で表す。

(2) must や should を使って、相手に「静かにすべきだ」と注意する文にする。助動詞のあとには動詞の原形が続くので、「静かにすべき」は must[should] be quiet の語順になることに注意。

6 (1) ① 「多くの外国人は災害時に大変な時を過ごしましたか。」本文 2～3 行目参照。

② 「病気の外国人は、医者が『やさしい日本語』を使うと何が理解できますか。」本文 11 行目参照。関係代名詞を含む the things which they should do は「彼ら(=病気の外国人)がすべきこと」という意味。質問には They can understand ～. の形で答えるとよい。

全訳

今日、私は日本語、特に外国人のための日本語について話すつもりです。25年前、日本に災害がありました。日本語の警告や必要な情報がわからず、多くの外国人がそのとき大変な時を過ごしました。言葉や文のほとんどが彼らにとっては難しすぎたのです。日本語でコミュニケーションをとるためには他の方法が必要でした。そこで、災害時に外国人を支援するため、「やさしい日本語」がつけられました。

「やさしい日本語」にはルールがあります。それらのいくつかをお伝えします。必要な情報をさまざまな情報源から選ぶべきです。簡単な言葉を使って文を短くするべきです。日本語を書くときはあまりに多くの漢字を使うべきではありません。これらのルールを理解することはあなたにとって難しいですか。

近頃はあなたの周りに「やさしい日本語」が広がりつつあります。いくつかの病院では、医者がそれを使っています。病気の外国人が、彼らがすべきことを理解できます。いくつかの市役所でもそれは使われています。彼らはどのように電車やバスに乗るかについて情報を提供するのは、その情報は「やさしい日本語」で書かれています。

🔗入試につながる

◆ will は話し手の意志と関係ない未来または話し手のその場で決めた意志、be going to は前もって考えられていた意図・近い将来の予定・話し手の見込みや確信を表す！

◆ 主語の人称・数にかかわらず、必ず〈助動詞 + 動詞の原形〉の形になる！

◆ can, must, should などの助動詞は話し手の判断や評価を表す！

ステップ1

- 1 (1) drinking (2) was (3) were (4) listening (5) know
 2 (1) have lived[been] (2) has been (3) haven't read, yet (4) has been
 (5) Have, yet, have (6) ever played, I've never (7) already had[eaten]
 3 (1) I have been playing the piano (for an hour.)
 (2) It has been raining since (this morning.)
 (3) (My brother) has been watching a baseball game since (7 p.m.)

① 速読チャレンジ 私は東京に1週間滞在しています。／これが私の初めての日本への訪問です、／そして私はそれをととても楽しんでます。／友達のヤスオが東京を案内してくれます。／明日、ヤスオは私を豊洲魚市場に連れて行ってくれることになっています。／私は魚市場を見たことがありません。／ですから私はそこを訪れるのを楽しみにしています。

解説

- 1 (1)(4) be 動詞 is があるので**現在進行形**の文にする。
 (2) When のあとが過去形なので, **was** が適切。
 (3) 主語が you なので, were が適切。
 (5) know 「知っている」などの**〈状態〉を表す一般動詞はふつう進行形にしない**。
 2 (1) 「5年間住んでいる」ので, **〈have + 過去分詞〉**の形にする。「～に住んでいる」→「～にいる」と考えて, have been でもよい。
 (2) since this morning があることから, **現在完了形**にする。主語が三人称単数なので, **〈has + 過去分詞〉**。
 (3) 「まだ～していない」は**〈have[has] not +**

過去分詞～yet〉で表す。

- (4) 「～に行ったことがある」というときはふつう **have[has] been to** ～で表す。
 (5) 「あなたはもう～してしまいましたか。」は **〈Have you + 過去分詞～yet?〉**の形。
 (6) 「あなたは今までに～したことがありますか。」は **〈Have you ever + 過去分詞～?〉**の形。「一度も～ない」は have[has] のあとに never を置いて表す。空所の数から I have の短縮形 I've を入れる。
 (7) already はふつう have[has] の直後に置く。
 3 **現在完了進行形は〈have[has] been + ～ing〉**。
 (2)(3) 「～から」は since で表す。

ステップ2

- 1 (1) is cleaning (2) have been (3) yet (4) just (5) since
 (6) was (7) already (8) ever (9) using
 2 (1) have never (2) times, been (3) I've just
 (4) were, doing (5) have been (6) three times
 3 (1) I have never eaten *daifuku*. [I haven't eaten *daifuku*.]
 (2) Beth has been interested in foreign languages since last year.
 (3) Cathy has already read this novel. [Cathy hasn't read this novel yet.]
 4 (1) How long have you lived in this town (?)
 (2) We have been friends since we were (five years old.)
 5 (1) (例) It has been snowing since yesterday. (2) (例) Have you seen my pen?
 6 (1) lived
 (2) ① Because it was written in English.
 ② They will get the chance to think about their important place.

- 1 (1)文末に now があるから、**現在進行形**の文。
 (2) before 「以前に」があるから、**現在完了形**。
 (3) 「もう～してしまいましたか」は疑問文の**〈Have[has] + 主語 + 過去分詞～yet?〉**で表す。
 (4) 「ちょうど～したところだ」は**〈have[has] just + 過去分詞〉**で表す。
 (5) 「2005年から」は **since 2005**。for 「～の間(ずっと)」は期間を表す。
 (6)過去の特定の時(when ～ room)に進行中だった動作は**過去進行形**で表す。
 (7) **already** は「すでに」を表す副詞。
 (8) 「あなたは今までに～したことはありますか。」は**〈Have you ever + 過去分詞～?〉**の形。
 (9)動作を「ずっと～している」は**現在完了進行形〈have[has] been +～ing〉**で表す。
- 2 (1) 「一度も～ない」は強い否定を表す never を使って、**〈have never + 過去分詞～〉**で表す。
 (2) 「何回～したことがありますか」と**〈経験〉**をたずねる文は**〈How many times have[has] + 主語 + 過去分詞～?〉**で表す。「～に行ったことがある」は have[has] been to ～。
 (3) 「ちょうど～したところだ」は**〈主語 + have[has] just + 過去分詞〉**で表す。空所の数から I have の短縮形 **I've** を入れる。
 (4) at that time 「そのとき」は過去の一時点を表す語。「あなたは何を～していましたか。」は**〈What were you +～ing?〉**の形でたずねる。
 (5) 2つ目の空所の直後に learning と動詞の～ing 形が続いているので、**現在完了進行形〈have[has] been +～ing〉**の文にする。
 (6) **3回目以降は～times** で表す。「1回」は once, 「2回」は twice, 「何回も」は many times で表す。
- 3 (1) **never はそのもので「一度も～ない」という強い否定**を表すので、never と他の否定を表す語を一緒に使わない。haven't → have に直すか、never を取る。

- (2) 「～に興味がある」は**〈be interested in ～〉**で表すので、**現在完了形**の文では be を過去分詞にして **has been interested in ～**で表す。
 (3) already はふつう肯定文で使うので、hasn't を has にする。または already を削除して、文末に yet を置き、「まだ～していない」とする。
- 4 (1)過去から現在までの継続期間をたずねるので、**〈How long have + 主語 + 過去分詞～?〉**に。
 (2) **since のあとには〈S + V〉を続けることができる**ので、「5歳のころから」は since we were five years old となる。
- 5 (1) 「**ずっと～している**」は**現在完了進行形**で表す。it を主語にして It has been snowing ～と表せばよい。「～から」は since を使う。
 (2)過去から現在までの間にペンを見ていないかたずねるので、**現在完了形**の疑問文にする。see の過去分詞は **seen**。
- 6 (1)直前に have があり、期間を表す語句 for two years があることから、**現在完了形**の文にする。live の過去分詞は **lived**。
 (2)① 「なぜミス先生はパンフレットを簡単に理解できたのですか。」本文3行目参照。
 ② 「その地元の高校生たちは経験から何を得られますか。」本文最終行参照。

全訳

私は青森県に2年間住んでいます。ある日、日本人の先生が私に北海道・北東北の縄文遺跡群についてのパンフレットをくれました。私はそれらについて知らなかったので、パンフレットを読みました。それは英語で書かれていたので、私は簡単に理解できました。それらの遺跡の1つがこの市にあって、私は自分の目でそれを見たと思いました。

1週間後、私はその遺跡を訪ねました。私は縄文時代の人々がたくさんの種類のものを作ったと知り驚きました。彼らの日常の生活で使われたものもあれば、儀式のような特別な目的のために使われたものもありました。それらすべてのものが私にとって美しく見えました。私が遺跡を見ていたとき、私は数名の地元の高校生に出会いました。彼らはボランティアガイドとして働いていました。彼らはその経験から、彼らの大事な場所について考える機会を得るでしょう。

🔗入試につながる

- ◆現在進行形は「今進行していること」を、過去進行形は「過去のある時点で進行していたこと」を表す!
- ◆現在完了形は「過去」と「現在」のつながりを示す語(句)に注意!

ステップ 1

1 (1) What (2) Whose (3) When (4) Which (5) Why

2 (1) (Do you) know where I can see (pandas?)

(2) (Please tell) me what you did yesterday (.)

(3) (Let's ask Tom) why he looks excited (.)

3 (1) can't you (2) is he (3) doesn't she

4 (1) How (2) How easy (3) What (4) What an

① **速読チャレンジ** ケンはシゲルと友達になりました / 仙台から東京に越してきてまもなく。 / 新しい学校での最初の日、 / ケンはわかりませんでした / ほかの生徒たちにどのように話しかけたらいいか。 / シゲルはケンに大好きなスポーツについてたずねました。 / シゲルは言いました / 自分はサッカーチームのメンバーだと。 / 彼はケンに言いました / 「ぼくたちのチームに入らないか」と。

解説

1 答えの部分から何をたずねているかを推測するとよい。

(1) 「私はふつうパンケーキを食べます。」と答えているので、「何を」をたずねる **What** が適切。

(2) 「ケイトのものです。」と答えているので、所有者をたずねる **Whose** が適切。

(3) 「10月です。」と答えているので、「いつ」をたずねる **When** が適切。

(4) 「紅茶がいいです。」と答えているので、「どちら」をたずねる **Which** が適切。

(5) 「私は昨夜よく眠れなかったからです。」と「理由」を答えているので、**Why** が適切。

2 (1)~(3)間接疑問とは〈**疑問詞 + S + V ~**〉でひと

まとまりの名詞を作り、動詞の目的語などとして使われるものをいう。疑問詞で始まる疑問文の語順と混同しないように注意。

3 (1)(3)肯定文に付く付加疑問は**否定の付加疑問**を付ける。

(2)否定文に付く付加疑問は**肯定の付加疑問**を付ける。

(3)一般動詞の場合は do, does, did を使う。

4 (1)(2)〈**How + 形容詞・副詞 (+ S + V)!**〉の語順。

(3)(4)名詞を含む語句がある場合は〈**What + 名詞を含む語句!**〉となる。

(4) interesting があるので、**an** を用いる。

ステップ 2

1 (1) What (2) How (3) why (4) she found

(5) do you (6) wasn't he (7) How much

2 (1) What time (2) when, is (3) How much (4) What a

(5) when, was built (6) isn't she (7) how, happened

3 (1) I don't know what sports you play.

(2) Becky can play tennis well, can't she?

(3) I'll show you how you can go to the restaurant.

4 (1) How many books are there in (the library?)

(2) I didn't know why my mother said (that to me.)

(3) (Maki) didn't tell me where she was (then.)

5 (1)(例) You didn't have breakfast today, did you?

(2)(例) Can you tell me what I should do next?

6 (1) 工

- 1 (1)「何の」をたずねるときは **what** を使う。
 (2)〈How + 形容詞・副詞(+ S + V) !〉で「なんて…だろう！」という驚きや感動などの感情を表す。
 (3)「なぜ～なのか」という間接疑問が understand の目的語になっている文。
 (4)間接疑問の語順は〈疑問詞 + S + V ~〉。
 (5)一般動詞の付加疑問は、否定文のあとなら、〈do[does/did] + 人称代名詞 ?〉の形にする。
 (6)主語が三人称単数で過去時制の be 動詞の文につく付加疑問。肯定文のあとに続くので、〈wasn't + 人称代名詞 ?〉の形にする。
 (7)値段をたずねるときは〈How much ~?〉の形でたずねる。
- 2 (1)「何時に」と具体的な時間をたずねるときは **What time** で文をはじめめる。
 (2)When is Mike's birthday? がほかの文の中に入るとき、間接疑問 **when Mike's birthday is** の語順になる。
 (3)数えられない名詞など、「量」をたずねるときは **how much** を使う。
 (4)名詞を含む語句がある感嘆文は〈What + 名詞を含む語句 !〉となる。
 (5)間接疑問に受け身の表現が入った文。〈疑問詞 + 主語 + be 動詞 + 過去分詞〉の語順。「その城がいつ建てられたか」は過去形で表すので、**was built** になることに注意。
 (6)be 動詞の文につく付加疑問。肯定文のあとなので、~, **isn't she ?** を続ける。
 (7)「起きたのか」なので過去の間接疑問。間接疑問の動詞を過去形にする。
- 3 (1)間接疑問は〈疑問詞 + S + V〉なので、**what sports you play** になる。
 (2)助動詞 can の付加疑問は肯定文のあとなら

- 〈, **can't + 人称代名詞 ?**〉、否定文のあとなら、〈, **can + 人称代名詞 ?**〉となる。
 (3)〈show + (人) + (もの)〉の「もの」の部分に間接疑問を入れる。**how you can go to the restaurant** の語順にする。
- 4 (1)本は数えられる名詞なので、「数」をたずねる **how many** で文をはじめめる。**much** が不要。
 (2)「なぜ母が私にそれを言ったのか」を間接疑問とする。why my mother said の語順になる。did が不要。
 (3)〈tell + (人) + (もの)〉の「もの」の部分に間接疑問を入れる。「どこにいたか」は過去時制の間接疑問で **where she was** の語順。is が不要。
- 5 (1)一般動詞の過去の付加疑問を続ける。否定文のあとなので、**did + 人称代名詞 ?**。
 (2)「～してくれませんか。」は Can you ~? で表す。〈tell + (人) + (もの)〉の「もの」の部分に間接疑問「次に何をすべきか」を入れる。
- 6 (1)直後のケンの発言でティムについての説明が続くことから、ジョーンズ先生はティムがだれかをたずねたと考える。

全訳

- ケン : こんにちは、ジョーンズ先生。
 ジョーンズ先生 : やあ、ケン。ここで何をしていますのですか。
 ケン : カナダから来た生徒のティムに、マンガを描いているのです。
 ジョーンズ先生 : まあ、本当ですか。ティムはだれですか。
 ケン : 先月、私の市に15人の生徒がカナダからやってきて、7日間滞在しました。ティムはその1人でした。彼は日本にいた間、私の家に滞在しました。
 ジョーンズ先生 : なるほど。彼と何をしましたか。
 ケン : 私たちは一緒にたくさんをしました。彼は私の描いたマンガを読むのが大好きだったので、私はうれしく思いました。

🔗入試につながる

- ◆疑問詞で始まる疑問文は、疑問詞に着目—「何をたずねたいか」がわかる！
- ◆間接疑問はそれ自体で名詞の働きをし、目的語などになる！
- ◆付加疑問は本体となる文と肯定・否定が逆になること、感嘆文は名詞を含む語句の有無に注意する！

ステップ 1

- ① (1) taller (2) the largest (3) more interesting
 (4) the most popular (5) better (6) earlier (7) old
- ② (1) better[more] than (2) the fastest (3) the best
 (4) as, as (5) not as (6) more, or
- ③ (1) not as, as
 (2) stronger, any other
 (3) longer, any other

① **速鉄チャレンジ** 新幹線は日本のすべての列車の中でいちばん速く走ります。／東海道新幹線は1964年に営業を開始しました。／それは東京オリンピック直前のことでした。／当時、新幹線「ひかり」の最高速度は時速210キロメートルでした。／「ひかり」は世界のほかのどの列車よりも速かったのです。

解説

- ① (1)(5)(6)空所のあとが **than** なので、いずれも**比較級**を入れる。
 (3)この文では文の後半に「理科か数学」の2つを提示しており、そのうちの「どちらがより面白いか」という点で比較させていることから、比較級 **more interesting** にする。
 (2)(4)空所のあとに比較の範囲を表す前置詞 **in** があるので、**最上級**にする。
 (7) **as ... as** ～で「～と同じくらい…」という意味を表す。…には形容詞・副詞の原級を入れるので **old** にする。
- ② (1)「…より～が好きだ」は **like** ～

better[more] than ... で表す。

- (2)副詞 fast「速く」の最上級は **fastest**。副詞の最上級では、**the** は省略されることもある。
 (3) good「よい、上手な」の最上級は **best**。
 (4)「～と同じくらい…」は **as ... as** ～。
 (5)「～ほど…ではない」は **not as ... as** ～。
 (6) often の比較級は **more often** で表す。
- ③ (1)「福島は岩手ほど大きくありません。」〈A is + 比較級 + than + B〉⇒〈B is not as + 原級 + as A〉の書きかえ。
 (2)(3)最上級⇒〈比較級 + than any other + 単数名詞〉の書きかえ。

ステップ 2

- ① (1) better (2) in (3) of (4) most expensive (5) hungry
- ② (1) more slowly (2) can, as well (3) the deepest (4) the oldest
- ③ (1) Aya is the best singer in our class.
 (2) This car runs faster than any other car in the world.
 (3) I don't like bananas as much as apples.
- ④ (1) Which is more difficult, speaking English (or writing it?)
 (2) What is the most important thing for you(?)
- ⑤ (1)(例) My room is not as large as yours.
 (2)(例) This computer is the most useful of the four.
 (3)(例) Can you show me a smaller one?
- ⑥ Yuka's plan: イ Mary's plan: ウ

解説

- ① (1)「あのかばんはこれよりもよさそうです。」空所の直後に **than** があるので、比較級の文に。

(2)「友里は家族でいちばん年下です。」〈比較の範囲〉を表す前置詞の使い分けに注意。「(彼女

の)家族で」は<in + 場所を表す語句>の形で **in her family** と表す。

(3)「拓也はすべてのメンバーの中でいちばんじょうずに野球をしますか。」「すべてのメンバーの中で」は<of + 複数を表す語句>の形で **of all the members** と表す。

(4)「この店でもっとも高いものは何ですか。」**expensive** はつづりの長い語なので、最上級は **most** をつけて **most expensive**。

(5)「私はクマのようにお腹が空いています。」**as ... as ~** を使った慣用表現。とても空腹であるという意味。

2 (1) **slowly** 「ゆっくりと」の比較級は **more slowly**。

(2) 「〜と同じくらい…」は **as ... as ~** で表す。

(3) **deep** 「深い」の最上級は **deepest**。

(4) **old** 「古い」の最上級は **oldest**。「〜のうちの1つ」は<**one of + 複数を表す名詞**>で表すので、**temples** と複数形になっていることに注意。

3 (1) 「彩はクラスでいちばんじょうずに歌います。」**singer** を用いて表すので **best** を形容詞として使い、「彩はクラスでいちばんじょうずに歌い手です。」という意味にする。

(2) 「この車は世界で最も速く走ります。」を<**比較級 + than any other + 単数名詞**>「ほかのどの〜よりも…」を使い、「この車は世界のほかのどの車よりも速く走ります。」とする。

(3) 「私はバナナよりもリンゴのほうが好きです。」を<**not as + 原級 + as ~**>「〜ほど…ではない」の形で「私はリンゴほどバナナが好きではありません。」とする。

4 (1) <**Which is ~, A or B?**>「A と B ではどちらがより〜ですか。」の形の疑問文。「英語を話すこと」と「英語を書くこと」はそれぞれ動名詞を使って、**speaking English, writing it (= English)** で表している。

(2) 「いちばん大切なもの」は **important** の最上級を使い、**the most important thing** とする。

5 (1) <**not as + 原級 + as ~**>「〜ほど…ではない」

の文。「私の部屋」ですでに **room** を使っているので、「あなたの(部屋)」は **room** をくり返さずに **yours** で表すとよい。

(2) **useful** 「役に立つ」の最上級は **most useful**。「4つの中で」は<**of + 複数を表す語句**>の形で **of the four** と表す。「4つの中」とすでに分かっているものの中で比べているので、定冠詞の **the** がつく。

(3) 「〜していませんか。」は **Can you ~?** で表す。この文では **than** は使われていないが、比較の対象にしているのは今見せてもらっている(見ている) T シャツで、それよりも小さいものを見せてほしいと伝える文をつくる。**small** 「小さい」の比較級は **smaller**。「もっと小さいもの」は **a smaller one** と表す。

6 メアリーと由香は、バスは到着まで長く掛かるうえ、長時間座っていたくないと話しているので、工ではない。由香は2番目の発言で飛行機が好きであるということと、鹿児島まで最短で行けるということと話しているため、由香の選んだものはイであるとわかる。メアリーは3番目の発言で「飛行機でそこへ行くよりも安いです。」と話していることから、メアリーが選んだものよりも安い金額だと判断する。したがって、ウが正解。

全訳

メアリー：鹿児島に行くのはとてもわくわくします。そこへ行くのにいくつかのプランを見つけました。由香、これを見てください。

由香：そうですね。これはとても安いですね。でもバスに乗れば、そこへ着くのにとても時間がかかります。

メアリー：その通りですね。10時間以上もバスで座っていたくないです！

由香：私は飛行機で旅行するのが好きです。ああ、飛行機でそこへ行く2つの方法がありますね。ええと、私にとってはこのプランがいちばんよいです。なぜならもっとも短い時間で鹿児島に行くからです。メアリー、あなたは どう思いますか。

メアリー：よさそうですが、私はこれが最もよいと思います。飛行機でそこへ行くよりも安いです。

GO 入試につながる

- ◆ 「何と何を比べているか」が比較のポイント—比較級・最上級のあとに続く語句に着目！
- ◆ <**as + 原級 + as ~**>は2つのものが同じ程度であることを表す！
- ◆ 同じ内容を原級や比較級、最上級で表せることがある！

ステップ1

- 1 (1) had (2) could (3) had (4) were (5) would
 2 (1) wish, had (2) lived, would (3) wish, were (4) were
 (5) wish, knew (6) weren't, could
 3 (1) I wish you told me (your birthday.)
 (2) If it were snowy today (, I would go skiing.)
 (3) (If I had more time,) I could sleep more (.)

① 速読チャレンジ 私の兄は高校生です。／彼は毎日早く起きます／そしてバスで学校に行きます。／私たちの町から出るバスは／2時間おきにしか運行しません、／ですから彼は遅れてはいけません。／昨日、／彼は寝坊しました／そしてもう少しでバスを逃すところでした！／家を出るとき、／彼は言いました／「ああ、車を運転できればなあ。」と。

解説

- 1 (1) 「姉[妹]がいればなあ。」現実と異なることへの願望を表す仮定法(I wish ~.)の文。wishのあとの動詞は過去形にするので、hadを選ぶ。
 (2) 「メアリーは『日本にいらればなあ』と言いました。」仮定法(I wish ~.)の文。wishのあとは助動詞も過去形にするので、canの過去形couldを選ぶ。
 (3) 「もしコンピュータを持っていれば、毎日使うのに。」現実とは異なることを仮定する仮定法の文。< If + 主語 + (助)動詞の過去形 ..., 主語 + 助動詞の過去形 + 動詞の原形 ~. >の形で表すので、If ... に続く動詞は過去形 had を選ぶ。
 (4) 「もし私があなただったら、地図を使うだろうに。」仮定法(If ...)の文では、If ... の部分のbe動詞は主語に関わらず多くの場合 were を使う。
 (5) 「もし今日晴れていれば、ケンとサッカーを

するのに。」< If + 主語 + were ..., 主語 + 助動詞の過去形 + 動詞の原形 ~. >の形で表すので、助動詞は will の過去形 would を選ぶ。

- 2 (1)(2)(5) I wish のあとや If ... の部分の動詞はそれぞれ過去形にする。
 (3)(4) 仮定法の文では、be 動詞は主語に関わらず多くの場合 were を使う。
 (6) 仮定法(If ...)の否定文。not を使うが、空所の数から were not → weren't にする。
 3 (1) told は tell の過去形。< tell + 人 + もの >の語順に注意。
 (2) 仮定法の文では、be 動詞は主語に関わらず多くの場合 were を使う。
 (3) 「もっと寝られるのに」は助動詞 can の過去形 could を使って I could sleep more と表す。

ステップ2

- 1 (1) were (2) were (3) were (4) would (5) could (6) knew (7) could
 2 (1) wish, weren't (2) were, would (3) didn't, could
 (4) wish, were (5) were, could (6) would buy (7) were, would
 3 (1) wish, were (2) it were (3) If, were
 4 (1) I wish I had more time to study (.)
 (2) If today were Sunday, what would you do (?)
 5 (1) (例) I wish I could speak three languages.
 (2) (例) If I were you, I would see a doctor.
 6 (1) ア (2) ウ (3) Yes, she does.

解説

1 (1)文の後半が<主語+助動詞の過去形+動詞の原形~>なので仮定法の文。If...の部分の動詞は過去形にするので、**were**を選ぶ。

(2)(3)願望を表す仮定法の文。I wish のあとの部分の動詞は過去形にするのでbe動詞の過去形**were**を選ぶ。be動詞は主語に関わらず多くの場合**were**を使う。

(4)仮定法の文の後半が疑問文になっているが、助動詞を**過去形**にすることは変わらない。

(5)仮定法は相手に断るときの表現としてもよく使われる。I wish I could.は「(できないが)できればなあ。」という願望を表し、断るときにもやわらかな印象を与えるので、会話表現として覚えておくとよい。

(6)If...の部分の動詞なので、knowの過去形**knew**を選ぶ。

(7)I wishのあとの部分の(助)動詞は過去形にするので**could**を選ぶ。

2 (1)I wish I were ~「私が~だったらなあ」の否定文。be動詞をweren'tにする。

(2)be動詞、助動詞はそれぞれ過去形にする。be動詞は主語に関わらず多くの場合**were**を使う。

(3)仮定法<If...>の文の否定文。don'tの過去形**didn't**を入れることに注意。

(4)「~があればなあ」は**I wish there were** ~.で表す。

(5)「もっと速く走れるだろうに」はcanの過去形**could**を使ってI could run fasterと表す。

(6)「買ってくれればなあ」は助動詞willの過去形**would**を使って表す。

(7)文の後半が疑問文になっていることに注意。what would happenには「(ありえないかもしれないが)一体どんなことが起きるか」というニュアンスが込められている。

3 仮定法でbe動詞を使う場合、主語に関わらず多くの場合**were**を使う。

(1)A「私の姉[妹]が日本にいればなあ。彼女は今イギリスにいます。」B「そうですね。彼女は

いつも私たちを助けてくれますからね。」仮定法<I wish ~.>の文にする。

(2)A「今日は釣りに行く予定ですか。」B「いいえ。こちらは雨が降っています。今日が晴れたらなあ！」仮定法<I wish ~.>の文にする。

(3)A「私は今東京にいます。どこか行くのによい場所を知っていますか。」B「私があなたなら、原宿に行きます。」If I were youは提案などをするときによく使われる表現。

4 (1)「勉強する時間がもっと」は不定詞を使ってmore time to studyと表す。**have**が不要。

(2)「(もし...なら)何をしますか」は仮定法を使って<what would you ~?>の形でたずねる。**is**が不要。

5 (1)「...ができればなあ。」は、<I wish ~.>。wishのあとの部分では(助)動詞の過去形を使うので助動詞canの過去形**could**を使う。

(2)「私があなたなら」は仮定法を使いif I were youとする。「医者に診てもらおう」は**see a doctor**で表す。

6 (1)直後で京子が作った和紙について話していることから、That's right.「そのとおりです。」を入れると流れが自然になる。

(2)空所に続く語句から、仮定法の文と考える。**If I were you**「もし私があなたなら」は会話中でもよく使われるので、会話表現としても覚えておくとよい。

(3)「ジュディは日本の伝統的なものが大好きですか。」京子の3番目の発言参照。

全訳

ジュディ：そのきれいなはがきはどこで買ったのですか。

京子：私はそれを歴史博物館で作りました。

ジュディ：自分で和紙を作ったということですか。

京子：そのとおりです。私は小さい大きさの和紙を作って、それをはがきとして使ったのです。

ジュディ：すばらしいですね！でも和紙を作ることは簡単ではありません。私があなたなら、店ではがきを買うでしょう。

京子：ええと。あなたが日本の伝統的なものが大好きだから、和紙を使ってあなたに特別なものを作りたかったのです。どうやってすばらしい年賀状を作ることができるかを考えるのは楽しかったです。

🔗入試につながる

◆ 仮定法は現実とは異なることを仮定したり、望んだりする表現！

◆ I wishのあとや<If...>の部分にくる(助)動詞は過去形にすることに注意！

- ステップ 1
- 1 (例) My favorite season is fall. I can enjoy good food in fall. It is also a good season for sports.
 - 2 (例) Science is the most interesting for me. I am interested in nature, so I want to study more about it in science class. (23 語)

解説

- 1 (解答例の訳) 「私がいちばん好きな季節は秋です。秋にはおいしい食べ物を楽しむことができます。スポーツをするのにもよい季節です。」
- 2 解答例は、「理科は私にとっていちばんおもしろいです。私は自然に興味があるので、それについて理科の授業でもっと勉強したいです。」という意味。まず最初に自分にとっていちばんおもしろい教科名を書き、その理由などを続ける。解答例では ~ is the most interesting for me. 「~は私にとっていちばんおもしろい」という形で教科を紹介しているが、I like ~ the best. 「私は~がいちばん好きだ」という形で

表してもよい。理由については because を使って Science is the most interesting for me because I am interested in nature. 「私は自然に興味があるので、私にとって理科がいちばんおもしろいです。」と 1 文で表してもよい。解答例では理由を述べてから自然についてもっと勉強したいという希望を加えている。ほかに、I can learn a lot about nature in science class. 「理科の授業で自然についてたくさんのことを学ぶことができる」のように、その授業の利点を述べてもよい。

- ステップ 2
- 1 (例) I will take care of young children because I like children. I want to make them happy. I will be happy if I can have a good time with them.
 - 2 (例) I will work for my town to make it better. There are not any museums in my town. I want to work to make a nice museum in my town. (30 語)

解説

- 1 (解答例の訳) 「私は子供が好きなので幼い子供の世話をするつもりです。私は彼らを喜ばせたいと思います。彼らと楽しく過ごせたらうれしいです。」
- 2 解答例は、「私は自分の町をもっとよくするために私の町のために働くつもりです。私の町には美術館がありません。私はすてきな美術館を作るために働きたいです。」という意味。最初に自分の将来の目標をはっきりさせて、その理由や目的などを続けるとよい。goal 「目標」という語を使って My goal is to make a nice museum

in my town. 「私の目標は自分の町にすてきな美術館を作ることです。」のように表すこともできる。解答例では「町をよくするために働く」という自分の目標を述べたあとで、町の現状(美術館がない)を述べて「すてきな美術館を作りたい」と、さらに具体的に目標を述べている。ほかに、If we have a nice museum, many people in my town will be happy. 「すてきな美術館があれば町の多くの人々が喜ぶだろう。」のように、将来の展望を述べることもできる。

入試につながる

- ◆英作文では<S + V> (主語+動詞)がある、文として正しい形で書くことを心がけよう!
- ◆問題で与えられている条件に合うように、文章の組み立てを考えよう!
- ◆無理に難しい語句や構文を使わずに、正しく使えるような表現を工夫しよう!

- 1 (1) to practice (2) finished (3) listening
- 2 (1) 3番目カ 5番目オ (2) 3番目カ 5番目ア
(3) 3番目ウ 5番目エ (4) 3番目ア 5番目イ
- 3 (1) ①イ ②ア
(2) それぞれの季節の多くの種類の花を見ることができるから。 (3) ウ
- 4 (1) A (2) ウ
(3) (We) have been practicing the (guitar together every day after school.)
(4) (例) (Because he heard that she could) play the guitar (.) (5) イ
- 5 (1) (例) I have never heard about it.
(2) (例) It is a traditional festival for girls in Japan.

解説

1 <キーワード>

ℓ. 1 speech contest(スピーチ・コンテスト)

ℓ. 2 relaxed(気が楽だ)

ℓ. 2 during(～の間)

(1) need は不定詞を目的語にとる。「コンテストの前に、私はとても一生懸命に～する必要があった」という文意に合うのは practice「練習する」。

(2) when の直後にある I に対する動詞を入れる。making を動名詞と考え、「スピーチをすることを」を目的語にする動詞として適切なのは finish「終わる」。文全体が felt と過去の文なので合わせて過去形 finished にする。

(3) 直前に前置詞(By)があるので、あとに続く動詞は動名詞にする。直後に to がくることから listening を入れて「～を聞くことによって」という意味にすると文意が成り立つ。

全訳 私たちのクラスでスピーチ・コンテストがありました。コンテストの前に、私はそのためにとても一生懸命に練習する必要がありました。コンテストの間ようやく自分のスピーチをし終えたとき、私は気が楽になりました。私のクラスメートのスピーチを聞くことによって、私は次回のためにもっと上手なスピーチをする方法を学びました。

2

(1) B が I like *sushi* the best 「すしがいちばん好きです」と答えているので、what food で始めて「どんな食べ物がいちばん好きですか」what food **do you like** the best? という最上級を用いた疑問文にする。

全訳 A: サヤカ、あなたはどんな食べ物がいちばん好きですか。

B: 私はすしがいちばん好きです。

(2) looked と happy があることから、<look + 形容詞>「～のように見える」を使う。happy のあとに to see を続ければ「～してうれしい」と、感情の原因・理由を表す表現になる。looked happy **to see the** animals there で「そこで動物を見てうれしそうでした」という意味になる。

全訳 A: 週末はどうでしたか。

B: 私は家族と動物園に行きました。私の姉[妹]はそこで動物を見てうれしそうでした。

(3) like を「～のような」の意味として使い、a watch like this とすると「このような腕時計」という意味のまとまりができる。I've wanted のあとに不定詞を続け、I've wanted to have a watch **like** this とすると「私はこのような腕時計を持ちたいと思っていたの」という文になり、会話が成り立つ。

全訳 A: お誕生日おめでとう、アヤコ! これはあなたへのプレゼントよ。

B: どうもありがとう、お母さん。私はこのような腕時計を持ちたいと思っていたの。

(4) B の応答から、「～の名前を知っていますか」という英文を考える。singing under the tree を「木の下で歌っている」という意味と考え、singing が後ろから girl を修飾する形にする。name を know の目的語にして Do you know the name of **the tall girl** singing under the tree? とすると、「木の下で歌っている背の高い

女の子の名前を知っていますか」という意味になり、次のBの発言内容に合う。

全訳 A: あなたは木の下で歌っている背の高い女の子の名前を知っていますか。

B: はい。彼女の名前はマイコです。

3<読解ポイント>

ℓ. 2 I'd like to ~.(私は~したい。)

ℓ. 8 have a good time(楽しく過ごす)

ℓ. 8~9 <It is ~ for +人 + to +動詞の原形>
(人にとって…することは~だ)

ℓ. 11 Could you ~?(~していただけますか。)

ℓ. 20 themは同じ文のVolunteers(ボランティアの人たち)を指す。

ℓ. 21 thatは、ホワイト先生が川沿いの通りで多くの種類の花を見ることができるから町を走るのが楽しいと思っていることを指す。

ℓ. 25 look forward to ~ing(~することを楽しみにする)

(1)①空所の直前にso「だから」があるので、文の前半I'd like to write about you for our school newspaper「私は学校新聞にあなたについて書きたい」が、空所に入る文の理由になる。アユミが次の発言でホワイト先生にいつ日本に来たかと質問していることから、イ「いくつか質問をしてもいいですか」が適切。ア「私はあなたの質問にどのように答えることができますか」、ウ「私があなたの質問に答えましょうか」、エ「私はあなたにどんな質問をするべきでしょうか」

②空所の直前でホワイト先生が「それ(=ホワイト先生について書いた学校新聞)を読むことを楽しみにしています。」と期待する気持ちを述べている。これに対する応答として適切なのはア「あなたがそれを気に入ってくれるとよいと思います。イ「それを聞いて残念です。」、ウ「私はそれを見る必要がありません。」、エ「私はあなたがそれを理解したことを知っています。」

(2)ホワイト先生は、5番目の発言で、running in this town is a lot of fun for me「この町の中を走ることは私にとってとても楽しい」と述べている。この直後にbecauseが続くので、because以下が、ホワイト先生がみなみ町を走

ることを楽しんでいる理由になる。

(3)ア「アユミはホワイト先生に、学校新聞のために彼の趣味について英語で書くよう頼みました。」アユミは最初の発言で、学校新聞にホワイト先生について書きたいと述べている。記事を書くのはホワイト先生ではなく、アユミである。イ「ホワイト先生は自分の国で大学生だったとき、走ることに興味がありませんでした。」ホワイト先生は4番目の発言で、大学生のときに走り始めたと述べているので合わない。ウ「アユミの母は川沿いの通りに花を育てているボランティアの1人です」アユミの7番目の発言の内容に合う。エ「アユミが川沿いの通りで花の手入れをしていたとき、彼女はホワイト先生に会いました。」川沿いの通りで花の手入れをしているのはアユミの母親。

全訳 アユミ：こんにちは、ホワイト先生。私の名前はアユミで、新聞部に入っています。私は学校新聞にあなたについて書きたいので、いくつか質問をしてもいいですか。ホワイト先生：もちろんですよ、アユミ。アユミ：あなたはいつ日本に来たのですか。ホワイト先生：私は2年くらい前に日本に来て、そのときからみなみ町に住んでいます。アユミ：わかりました。あなたはこの町で暮らすことが楽しいですか。ホワイト先生：はい。私には多くの日本人の友達がいる、彼らと楽しく過ごしています。学校で日本の生徒たちに英語を教えることも、私にとってすばらしい経験です。アユミ：それはいいですね。私はあなたの英語の授業が好きです。私は少しずつ自分の英語が上達してきたと思っています。それでは、話題を変えましょう。あなたの趣味についてお話していただけますか。ホワイト先生：ええと、私の趣味は走ることです。私はオーストラリアで大学生だったときに走り始めました。今は、毎朝朝食の前に走っています。アユミ：うわあ、毎朝ですか。毎朝走るのには難しいですね。ホワイト先生：実は、それぞれの季節の多くの種類の花を見ることができるので、この町の中を走ることは私にとってはとても楽しいのです。アユミ：それらは川沿いの通りにある花ですか。ホワイト先生：はい、そうです。アユミ：この町に住んでいるボランティアたちが花を育てていて、私の母がそのうちの1人なんです。だから彼女はそのことを聞いてとてもうれしいと思うでしょう。ホワイト先生：そうだといいですね。アユミ：お時間をいただき、ありがとうございます。ホワイト先生。次の学校新聞で、あなたがなぜみなみ町で走るのを楽しんでいるかを生徒たちに伝えたいと思います。ホワイト先生：それを読むのを楽しみにしていますよ。アユミ：気に入ってもらえるといいです。

4<読解ポイント>

ℓ. 2 chance to ~ (~する機会)

ℓ. 7 I see.(わかりました。)

ℓ. 9 thatはダイスケの母親がギターを弾くことができることを指す。

ℓ. 11 〈get + 形容詞〉(～になる) betterはgood(上手だ)の比較級。

ℓ. 12 do one's best(全力を尽くす)

(1)補う文は、「でも、それを上手に弾くことは私にとってとても難しかったです。」という意味。本文中で話題になっている楽器はギターなので、itは「ギター」を指すと考えて適する場所を探す。空所Aの直前で、音楽の先生がギターを弾くための助言をくれたことが述べられているので、Aに補うと話の展開が自然になる。

(2)下線部の直前で、ダイスケの母親が「私のギターを弾いてみたい?」と言っていることから、ダイスケの母親は実際にギターを持っていることがわかる。ウを入れると、「私は若いときに弾いたギターをまだ持っています」という意味になり、直前の文とのつながりが自然になる。

(3)been, have, practicingがあることから、現在完了進行形〈have[has] been + 動詞の～ing〉の形にする。過去のある時点から現在まで続いている動作を表すときに用いる。

(4)質問は、「ダイスケは母親と話していたときになぜ驚いたのですか。」本文8～9行目にI was surprised to hear that「私はそれを聞いて驚きました」とある。この直前にso「だから」があるので、その前の部分I didn't know that my mother could play the guitar「私は母がギターを弾けることを知りませんでした」が驚いた理由になる。与えられている解答に合うように、空所にplay the guitarと入れると、「彼は母親がギターを弾けると聞いたので」という意味になって本文の内容と合う。

(5)ア「ダイスケは音楽が好きではなかったので、どんな楽器も演奏できませんでした。」本文1行目に「音楽が大好きです」とあるので、合わない。イ「ダイスケは母親が彼女の部屋から持ってきたギターを練習するために使いました。」本文9行目に着目する。ダイスケの母親が自分のギターを持ってきてダイスケに渡し、本文10～11行目でダイスケが母の助けとキシ先生の助言のおかげでギターがうまくなっていったことが述べられているので、ダイスケは母親のギター

を使って練習したことがわかる。ウ「ダイスケが学校のギターを自分の家に持っていったので、アキはギターを上手に弾くことができませんでした。」本文3～4行目から、アキがギターを上手に弾くことができることがわかる。また、ダイスケが学校のギターを家に持ち帰ったことは述べられていない。

全訳 私は中学生で、音楽が大好きです。しかし、私は最近まで楽器を上手に演奏することができませんでした。ある日、私は学校の音楽の授業でギターを弾いてみる機会がありました。私の友達の1人、アキと私がペアをつくり、1つのギターで練習しました。アキは小学生だったときにギターを習ったので、上手にギターを弾きました。でも、それを上手に弾くことは私にとってとても難しかったです。それから、私たちの音楽の先生であるキシ先生がギターを弾くための助言をくれました。

家に帰ったあと、私は母に、「ぼくはギターを練習したけれど、まだそれを上手に弾くことができなかつたよ」と言いました。「まあ、わかったわ。私のギターを弾いてみたい? 私が若かったときに弾いていたギターをまだ持っているのよ」と母が言いました。私は母がギターを弾けることを知らなかったので、それを聞いて驚きました。彼女はほほえんで自分の部屋からそのギターを持ってきて、それを私にくれました。「これを弾いてもいいの?」と私はたずねました。「もちろんよ!」と母は言いました。母の助けとキシ先生の助言のおかげで、私は上手になっていきました。

次の音楽の授業で、私はギターを弾くために全力を尽くしましたが、いくつか間違えました。キシ先生とほかの生徒たちは、私がこの前からとても上達していたので驚きました。今、私には新しい目標があります。私は学園祭でアキといっしょにギターを弾くつもりです。私たちは毎日放課後、いっしょにギターを練習し続けています。

〈読解ポイント 接続詞に注意して物語の展開をつかむ〉

I am a junior high school student and I love music. **But** I couldn't play instruments well until recently. One day, I had a chance to try a guitar in music class at school. One of my friends, Aki, and I made a pair and we practiced with one guitar. **Aki played the guitar well because she learned the guitar when she was an elementary school student.** **But** it was very difficult for me to play it well. Then, our music teacher, Mr. Kishi, gave me some advice for playing the guitar.

After coming back home, I said to my mother, "I practiced the guitar **but** I couldn't play it well yet." "Oh, I see. Do you want to try my guitar? I still have the guitar I played **when** I was young," my mother said. **I didn't know that my mother could play the guitar, so I was surprised to hear that.** She smiled and brought the guitar from her room and gave it to me. "Can I play this?" I asked. "Of course!" said my mother. Thanks to my mother's help and Mr. Kishi's advice, I started to get better.

At the next music class, I did my best to play the guitar, **but** I made some mistakes. Mr. Kishi and the other students were surprised **because** I improved a lot since last time. Now, I have a new goal. I am going to play the guitar with Aki at the school festival. We have been practicing the guitar together every day after school.

5

(1)「初耳」とは、「今までに聞いたことがない」ということなので、経験を表す現在完了を用いて、I have never heard about it.「私はそれについて聞いたことがありません。」などと表す。itの代わりにthatを用いてもよい。

全訳 ユリ：こんにちは、ジョン！新しい生徒が東京から私たちの学校に来るのよ！

ジョン：おや、本当？ ぼくはそれについて聞いたことがないよ。

(2)ジョンの「ひな祭りとは何ですか。」という問いへの答えなので、「ひな祭り」を説明する英文を作る。「日本の祭り」、「女子のためのもの」といったことを書けばよいので、It is a traditional

festival for girls in Japan.「それは女子のための日本の伝統的な祭りです。」, It is a Japanese festival for girls.「それは女子のための日本の祭りです。」などと表すことができる。

全訳 ジョン：きみのお母さんが、もうすぐ「ひな祭り」が来ると言っていたよ。「ひな祭り」って何？

ユリ：それは女子のための日本の伝統的な祭りよ。ジョン：わかった。教えてくれてありがとう。

⇄入試につながる

- 1 語形を変化させて空所に適する語句を入れる問題では、主語の人称と時制に特に注意する。不定詞と動名詞の使い分けもよく出題される。また、動詞の変化は確実に覚えておこう。
- 2 対話文中の並べかえ問題では、〈主語＋動詞〉を中心に組み立てる文の構造を見抜くことが重要。また、対話の流れをつかんで、組み立てる文の意味を推測することもポイントになる。
- 3 会話文問題では、依頼や勧誘の表現、許可を求める表現など、基本的な会話表現の知識が必要。(1)のように文の流れを完成させる問題では、空所の前後のつながりをつかむことがポイント。特に直前直後にある接続詞に注意して前後関係を読み取ろう。
- 4 (1)のように適する場所に文を補う問題では、補う文の内容を理解することはもちろんだが、文章全体の流れを正しくつかめているかが重要。代名詞や時・場所を表す語句に注意しながら物語の流れを正しくつかもう。(4)のような問題では、質問の英文に関する内容が本文のどこに書かれているかをおさえることが重要。(4)の場合は、ダイスケが母親と話しているときにダイスケが驚いた場面を探す。
- 5 (1)は与えられている日本語を、英語で表しやすくするために、まず日本語で同じ内容になるように言いかえることを考えよう。(2)は「ひな祭り」について最低限必要な説明を考え、複雑な構文は避けてなるべく簡潔な表現を使って表そう。

- 1 (1)ウ (2)ア (3)イ
 2 (1)イ→ウ→ア (2)ウ→イ→ア
 3 (1)工 (2)イ
 4 (1)kind (2)(B)chose (C)living (3)ア
 (4)a lot of sick children (5)工, 才 (6)ウ
 5 (1)(例)I have been interested in (2)(例)read books for children in the library
 (3)(例)符号:A

(例)あなたの考え: Many people visit the park. If the park is clean, they can have a good time there.(17 語)

解説

1<キーワード>

(2)ℓ. 1 to eat breakfastがmore timeを修飾している。「朝食を食べるためのもっと多くの時間」

ℓ. 2 <命令文, and ~.> (…しなさい, そうすれば~。)

(3)ℓ. 2 how to ~(どのようにして~すればよいか, ~のし方)

ℓ. 3 feel free to ~(遠慮なく~する)

ℓ. 4 <let+(人など)+動詞の原形>((人など)に~させる)

(1)空所を含む文の直後で、「彼女から借りました」と言っているので、バッグはB以外のある女性のものとなる。A「私のもの」、イ「あなたのもの」、工「私のバッグ」。

全訳 A: うわあ! あなたのバッグは本当にきれいだね。

B: ありがとう。これは姉[妹]のものです。今日、彼女から借りたんです。

(2)「早く起きればもっと時間がある」という内容にすると会話が成り立つ。<命令文, and ~>「…しなさい, そうすれば~」。イ「そうしないと」、ウ「しかし」、工「~ということ」。

全訳 A: ああ、遅刻する! 朝食を食べる時間ももっと必要だよ。

B: もっと早く起きなさい, そうすればもっと時間がありますよ。

(3)質問がある場合にすることを考える。イ「遠慮なく私にたずねてください」を入れると文意が成り立つ。feel free to ~「遠慮なく~する」。A「あなたは私と一緒にギターを弾くでしょう」、

ウ「私はあなたと仲良くするでしょう」、工「あなたに例を挙げさせてください」。

全訳 A: こんにちは、私の名前はユミです。何か質問があったら遠慮なく私にたずねてください。

B: ありがとう。ほくはジョンです。ええと、コンピュータ室への行き方を教えてもらえますか。

2<読解ポイント>

(2)ℓ. 2 try ~ on(~を試着する)

ℓ. 3 onesはtennis shoesを指す。

ℓ. 4 look for ~(~を探す)

(1)最初に誕生日をたずねているので、日付を答えているイを続ける。その日付がクリスマスのちょうど1か月前だと言うウのあとに、それを認めているアを続ける。

全訳 あなたの誕生日はいつですか、ケン?

11月25日です。

うわあ、クリスマスのちょうど1か月前ですね!

はい。その通りです。

(2)選択肢の英文から店での会話と判断する。

Can I help you?は「お手伝いしましょうか。」という店員のあいさつ。白いテニスシューズを探しているというウに続き、店にある白いシューズについて答えているイがくる。

全訳 こんにちは。お手伝いしましょうか。

はい、お願いします。白いテニスシューズを探しています。

ええと、白いものは3種類ございます。

いいですね。はいてみてもいいですか。

3<読解ポイント>

カレンダー右ℓ. 2 can be burned(燃やされることができ→燃やせる)助動詞の受身形は(助動詞+be+過去分詞)の形をとる。

ℓ. 4 cannot be burned(燃やされることができない→燃やせない) 助動詞の否定の受け身形は〈助動詞 + not + be + 過去分詞〉の形をとる。

ℓ. 11 at any time(いつでも)

(2)ℓ. 3 once a month(月に1度) このaは「～につき」という意味。

(1)質問は、「どのマークが燃やせないごみを示していますか。」という意味。燃やせないごみについての説明はカレンダーの右のTrash「ごみ」の2つ目にある。The second and fourth Thursday「第2, 4木曜日」なので工が適する。

(2)質問は、「カレンダーについて正しいものはどれですか。」という意味。アは「3月は、燃やせるごみは8回収集される。」という意味。カレンダーの右の1つ目から、燃やせるごみは毎週火曜日と金曜日に収集される。左のカレンダーから、3月中の火曜日と金曜日は9日あるので合わない。イは「古新聞と古着は月に1度収集される。」という意味。カレンダーの右の3つ目から、古新聞と古着の収集は第1水曜日のみで、月に1度であることがわかる。ウは「私たちは毎週月曜日にペットボトルをリサイクル・ステーションに持ち込むべきだ。」という意味。カレンダーの右のいちばん下から、缶、びん、ペットボトルは毎週月曜日の収集のほか、リサイクル・ステーションにはいつでも持ち込めることがわかるので合わない。エは「ゴミは午前8時30分までは出すべきではない。」という意味。カレンダーのいちばん下にある注意書きと反対の内容なので合わない。

カレンダー右の全訳 燃やせるごみ：毎週火曜日と金曜日

燃やせないごみ：第2, 4木曜日

古新聞と古着：第1水曜日

缶、びん、ペットボトル：毎週月曜日または、リサイクル・ステーションにはいつでも持ち込めます。

※あなたは収集日に午前8時30分までにゴミを出すべきです。

4〈読解ポイント〉

ℓ. 1 in the future(将来に)

ℓ. 6 no one(だれも～ない) = nobody

ℓ. 14 themは女性の、奴隷にされた両親を指す。

ℓ. 14 to hear(聞いて) 感情の原因・理由を表

す副詞用法の不定詞で「～して」の意味を表す。
ℓ. 15 After thatのthatは女性の両親が逃げた自由の身になったことを指す。

ℓ. 23 〈want + (人) + to + 動詞の原形〉 ((人)に～してほしい) get married(結婚する)

ℓ. 25 make A B(AをBにする)

ℓ. 26 〈tell + (人) + to + 動詞の原形〉 ((人)に～するように言う)

ℓ. 26 theirは女性が一緒に勉強しようと声をかけた友人たちを指す。

ℓ. 35 each other(お互い)

(1)和也は下線部の直後で、「今日、私は3人の人々についてお話しします。」と述べて、このあと自分のおじ、およそ150年前にアメリカで生まれた女性、インドの少女という3人の異なる人物について説明している。それぞれ異なる人物であることから、下線部の空所にkind「種類」を入れると「みなさんはどのような種類の人物になりたいですか。」という意味になり、文章の展開に合う。kindという語は、本文30～31行目のI want to be kind to～「私は～に親切にしたいです」で「親切的な」という意味で用いられている。

(2)空所(B)を含む段落では、小児科医として働く和也のおじについて説明されている。空所の直後のhis jobは「小児科医の仕事」で、本文3～4行目で「彼はなぜ小児科医になる決心をしたのでしょうか。」と問いかけて、おじが小児科医になるまでのいきさつを説明していることから、空所にはchoose「選ぶ」の過去形choseを入れると文脈に合う。

空所(C)以下の部分がa girlを後ろから修飾する形を考え、liveのing形livingを入れると「インドのジャールカンド州に住んでいる少女」となり、文意が成り立つ。

(3)空所(D)の前に「私には夢があります」とあり、そのあとの和也の言葉に「彼女は今、とても一生懸命に勉強していると思います。」と、インドのジャールカンド州に住んでいる少女が夢の実現のために努力していることを述べている。ア「だれもそれを止めることはできません。」を入れると、少女の強い決意を表す文となり、この流れに合う。イ「だれでもそれを変えることが

できます。], ウ「私はそれに従うことができません。], エ「私の父はそれを理解できません」はいずれもこの段落の説明の流れに合わない。

(4)下線部(E)を含む文の直前で、和也は「多くの病気の子供たちが彼らを支える人を必要としていると思います。」と述べている。これに続いて「彼らに治療を与えることができればいいと思います。」と述べているので、「治療を与える」対象として適切なのは a lot of sick children 「多くの病気の子供たち」。

(5)ア「和也のおじは英語の教師として子供たちの問題に取り組んでいます。」本文3行目から、和也のおじは小児科医であることがわかる。イ「和也のおじは自分の病院をもっと大きくするためにとても一生懸命に働いています。」本文3～10行目で和也のおじについて説明しているが、自分の病院を大きくしようとしていることは述べられていない。ウ「アメリカの女性は10歳のときにコロラド州に行きました。」本文11～12行目から、10歳のときにコロラド州に行ったのは和也であることがわかる。エ「アメリカの女性は50年間コロラド州で医者として働きました。」本文19～20行目の内容に合う。オ「インドの少女は早く起きて医者になるために一生懸命に勉強します。」本文22行目および27～28行目の内容に合う。カ「インドの少女は、彼女の父親が優秀な学生だったので彼を自慢に思っています。」本文28行目に引用されている少女の父親の言葉を参照。少女が父親を自慢に思っているのではなく、父親が自分の娘を自慢に思っていることがわかる。キ「和也は英語を教えることを通じて世界がもっとよくなればよいと思っています。」本文33～34行目に和也の英語の勉強について述べられているが、人に英語を教えることによって世界をもっとよくするとは述べられていない。本文34～35行目で、人々が互いに助け合うことで世界はもっとよい場所になるだろうと述べている。

(6)和也は、医者になる夢を実現させた人物や実現しようと努力している人物について説明したあと、本文30～31行目で自分も医者になって海外で働きたいと述べている。共通するテーマは自分の夢なので、題名としてはウ「私の将来

の夢」が適切。アは「私が大好きなおじ」、イは「私が大好きな国」、エは「私の将来の家族」という意味。

全訳 あなたがたは将来何をしたいですか。あなたがたはどのような種類の人物になりたいですか。今日、私は3人の人々についてお話しします。

最初の人物は私のおじです。彼は小児科医として病院で働いています。彼はなぜ小児科医になる決心をしたのでしょうか。ある日、彼が中学生だったとき、彼はテレビで世界中のとても多くの子供たちが貧しいために病院で治療を受けられないことを学びました。彼は私に、「だれも私が医者になるだろうとは思っていませんでした。でも私はとても一生懸命に勉強したんだ」と言いました。彼は高校を卒業したあと、自分の仕事を選びました。彼はまた、「私は私の病院にいたすべての子供たちを覚えているよ。私はもっとよい医者になるためにもっと一生懸命に勉強する必要があるし、もっと多くの子供たちを助けたいんだ」と言いました。私は、彼が将来海外で働くことを聞いています。私は、彼が世界中で多くの病気の子供たちを助けるだろうと思います。

2番目の人物はおよそ150年前にアメリカで生まれた女性です。私が10歳だったときに、私はアメリカのコロラド州の小学校に通っていました。ある日、私たちの先生がある黒人女性について私たちに話しました。彼女の父親と母親は奴隷にされていました。当時、多くの黒人はアメリカで彼らのように生きなくてはなりません。私はそれを聞いてとても驚きました。彼女の父親と母親は逃げて自由になりました。その後、彼女が生まれました。彼女が幼い子供だったときに、彼女は彼女の母親のようになりたいと思いました。彼女の母親は看護師でした。彼女はしばしば母親と一緒に病気の人たちを訪ねました。彼女は学校でとても優秀な生徒でした。彼女はとても一生懸命に勉強しました。ついに、彼女は医学部を卒業しました。それはおよそ120年前のことでした。数年後、彼女はコロラド州に引っ越しました。彼女はコロラド州で最初の黒人女性の医者になったのです。彼女は50年間、そこで病気の人々を助けました。

3番目の人物はインドのジャールカンド州に住んでいる少女です。私はインターネットで彼女のことを学びました。彼女は13歳です。彼女の夢は医者になることです。でも、彼女の家の近くに住む人々、特に高齢の人たちの中には、彼女が18回目の誕生日前に結婚することを望む人もいます。ジャールカンド州では、少女のおよそ40パーセントが18歳になる前に結婚します。彼女はインドで子供たちの問題に取り組んでいて、彼女の国をもっとよくする方法を見つけようと努力しています。彼女はしばしば友人たちに一緒に勉強するように言っています。彼女はもっと一生懸命に勉強すれば、彼女たちは自分たちの将来を変えることができると言います。彼女は毎朝3時30分に起きて、自分の夢を実現させるために一生懸命に勉強しています。彼女の父親は、「一生懸命に勉強するのはよいことです。私は彼女を自慢に思っています」と言っています。彼女はそれを聞いて喜びます。彼女は、「私には夢があります。だれもそれを止めることはできません」と言っています。彼女は今、と

でも一生懸命に勉強していると思います。

将来、私は医者になって海外で働きたいと思っています。この3人の人たちのように、私はほかの人々に親切にして私の夢を実現させるために一生懸命に勉強したいと思っています。私は、多くの病気の子供たちが彼らを支える人を必要としていると思います。私は彼らに治療を与

えることができればいいと思います。だから、私は特に英語を毎日とても一生懸命に勉強しています。英語を使えば、世界中のもっと多くの人々と一緒に働くことができます。みんなが支援を必要とする人を助けることができます。私は、人々が互いに助け合えば世界はもっとよい場所になるだろうと信じています。

〈読解ポイント 複雑な文の意味のまとまりを見抜いて細かい内容をつかむ〉

What do you want to do in the future? What kind of person do you want to be? Today, I will talk about three people.

The first person is my uncle. He works at a hospital as a children's doctor. Why did he decide to be a children's doctor? One day, when he was a junior high school student, he learned (on TV) that so many children (around the world) could not get medical treatment (at hospitals) because they were poor. He said to me, "No one thought I would become a doctor. But I studied very hard." After he graduated from high school, he chose his job. He also said, "I remember all the children who were in my hospital. I need to study harder to be a better doctor, and I will help more children." I hear that he will work abroad in the future. I think that he will help many sick children all over the world.

彼が中学生だったとき

彼は学んだ

【that】so many children (around the world) could not get medical treatment (at hospitals) because 【that】so many children (around the world) could not get medical treatment (at hospitals) because

【that】so many children (around the world) could not get medical treatment (at hospitals) because

V

O

結果← →理由

they were poor. He said to me, "No one thought I would become a doctor. But I studied very hard." After he graduated from high school, he chose his job. He also said, "I remember all the children who were in my hospital. I need to study harder to be a better doctor, and I will help more children." I hear that he will work abroad in the future. I think that he will help many sick children all over the world.

(彼らが)貧しいために

The second person is a woman who was born in America about 150 years ago. When I was ten years old, I went to an elementary school in Colorado, America. One day, our teacher told us about a black woman. Her father and mother were enslaved. Many black people had to live like them in America at that time. I was very surprised to hear that. Her father and mother escaped and became free. After that, she was born. When she was a small child, she wanted to be like her mother. Her mother was a nurse. She often visited sick people with her mother. She was a very good student at school. She studied very hard. Finally, she graduated from medical college. That was about 120 years ago. A few years later, she moved to Colorado. She became the first black woman doctor in Colorado. She helped sick people there for fifty years.

The third person is a girl living in Jharkhand, India. I learned about her on the Internet. She is

thirteen years old. Her dream is to be a doctor. But some people who live near her house, especially old people, want her to get married before her eighteenth birthday. In Jharkhand, about 40% of girls get married before the age of eighteen. She works on children's problems in India and tries to find ways to make her country better. She often tells her friends to study with her. She says that they can change their futures if they study harder. She gets up at three thirty every morning and studies hard to fulfill her dream. Her father says, "Studying hard is good. I am proud of her." She is glad to hear that. She says, "I have a dream. No one can stop it." I think that she is now studying very hard.

In the future, I want to be a doctor and work abroad. Like these three people, I want to be kind to other people and study hard to fulfill my dream. I think that a lot of sick children need someone who gives them support. I hope that I can give them medical treatment. So I study very hard every day, especially English. I can work with more people around the world if I use English. Everyone can help someone who needs support. I believe that the world will be a better place if people help each other.

5 <キーワード>

<原稿> ㉔.1 one of them の them は直前の文の volunteer activities を指す。

㉔.5 Would you like to ~?(~してはいかがですか。)ここでは勧誘する表現として使われている。

① because 以下に「私は長い間ボランティア活動に興味があった」という内容の英語を続ける。「~に興味がある」は be interested in ~。「長い間ずっと興味があった」という文意から、継続を表す現在完了形にする。

② I will のあとに「図書館で、子どもたちに本を読む」という内容の英語を続ける。「本」は単数形でも複数形でもよい。「(人)に本を読む」は <read a book for +(人)> で表す。「図書館で」は、館内で本を読むことが想定されるので in を用いて in the library とした方がよいだろう。

③ 解答例は A を選んだ場合のもので「多くの人

が公園を訪れます。公園がきれいなら、彼らは楽しく過ごせます。」という意味。ほかに、I like to walk in the park, so I want to make the park clean. 「私はその公園を歩くのが好きなので、その公園をきれいにしたいです。」(15語)のように、個人的な理由を挙げてよい。B を選ぶ場合は、I like children. 「子どもが好きです。」、I want to make children happy. 「子どもたちを喜ばせたいです。」、It is important for children to listen to stories. 「物語を聞くことは子どもたちにとって大切です。」などの理由が考えられるが、字数の条件から、複数の内容を含めてもよい。

全訳 先週、私はボランティア活動についてのポスターを見ました。私は長い間ボランティア活動に興味があったのでそれらのうちの1つに参加したいと思います。

そのポスターに、私は2つの違う活動、A、Bを見つけました。Aを選べば、私は公園のゴミを拾います。Bを選べば、私は図書館で、子どもたちに本を読みます。

🔗入試につながる

- 1 文法事項を問う問題だが、対話文形式なので、対話の内容と流れを正しくつかむ必要がある。(1)ではBの発言の2文目にあるherが、(2)ではAの「朝食を食べる時間ももっと必要だ」という発言が、(3)では空所の直前の「何か質問があったら」がポイントになる。
- 2 文を正しく並べかえる問題。ここでは最初の1文が与えられているので、それに続けて自然な対話になるものを選ぶ。1文目でたずねている内容をつかむことが重要だが、話題になっている人やもの、代名詞が指す人やものに特に注意が必要。
- 3 ポスター、チラシ、表、グラフなどを使う問題では、その中に書かれている日付、時刻、数値などについての情報を正しくつかむことが問われる。それらの情報は簡潔な表現で示されているのが普通だが、よく知っている語句でも読み違えば正解できないので注意する。
- 4 (1)のように本文中にある語句を空所に補う問題では、いきなりほかの箇所から当てはまりそうな語句を探すのではなく、空所に入りそうな語句をまず考えよう。(4)は本文中から抜き出す問題だが、(1)と同じように、まずは「5語」という条件に捕らわれずにthemが指す人やものを考え、それと同じ内容の5語のまとまりを探すのが効率的だ。
- 5 条件英作文の問題では、与えられている条件を正しく理解することが第一。この問題では、かなり細かく条件が決められているので、まずはじっくりと問題文を読んで正しく理解することが重要。①、②は和文英訳に近い問題。必ずしも参考とする日本語をそのまま英語にすればよいとも限らない場合もあるので、主語や時制など基本的な事柄に注意しよう。「あなたの考え」は10語以上20語以内という制限があるが、20語という語数は決して多い語数ではないので多くのことは書けない。書くべき内容は1つに絞って、語数が足りなければ、別の内容を加えるのではなく、説明や自分の気持ちなどを補足しよう。語数や文の数についての感覚も意識しておくとうい。

